

**令和 5 年度
浅口市男女共同参画に関する
市民意識調査**

【集計結果】

令和 6 年 3 月

浅口市

《目次》

第1章 調査方法.....	1
第2章 調査結果.....	2
あなたご自身のことについておたずねします。.....	2
男女平等に関する意識についておたずねします。.....	8
家庭生活についておたずねします。.....	9
地域活動への参加などについておたずねします。.....	13
就労・働き方についておたずねします。.....	17
人権についておたずねします。.....	30
男女共同参画社会についておたずねします。.....	36

第1章 調査方法

調査対象者	令和5年11月1日現在、浅口市にお住まいの満18歳以上の方
調査方法	アンケート依頼チラシの全戸配布
回答方法	インターネットによる回答
調査期間	令和5年11月1日～11月30日
回答者数	107名（各項目にN標記がない場合はすべてこの数値とする）

調査集計にあたっての留意事項

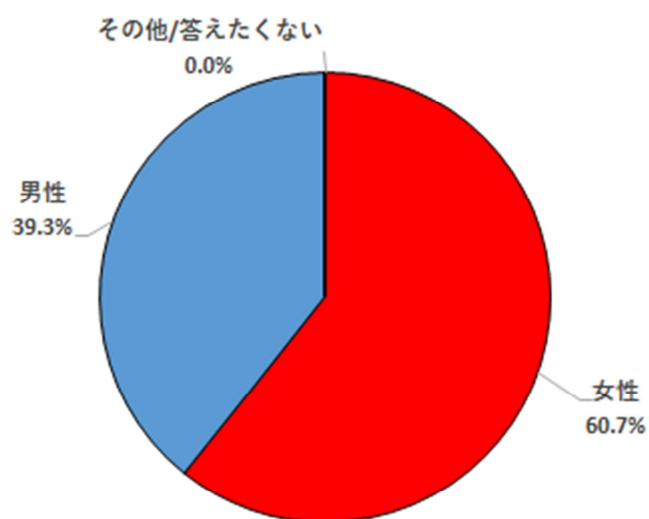
- 回答結果は小数点第2桁目を四捨五入しています。この関係で、単回答（複数の選択肢からひとつだけを選ぶ形式）の合計値がちょうど「100.0」にならない場合があります。
- 複数回答（2つ以上の回答を選ぶ形式）における割合についての単位はパーセントとしています。この場合、回答は有効標本数全体に対して各々の割合を示すものであり、各選択肢の回答を合計しても「100.0」とはなりません。
- 本報告書における「N」「SA」「MA」は、それぞれ
 - 「N」＝サンプル数のこと
 - 「SA」＝単回答のこと（Single Answer の略）
 - 「MA」＝複数回答のこと（Multiple Answer の略）を示します。

第2章 調査結果

あなたご自身のことについておたずねします。

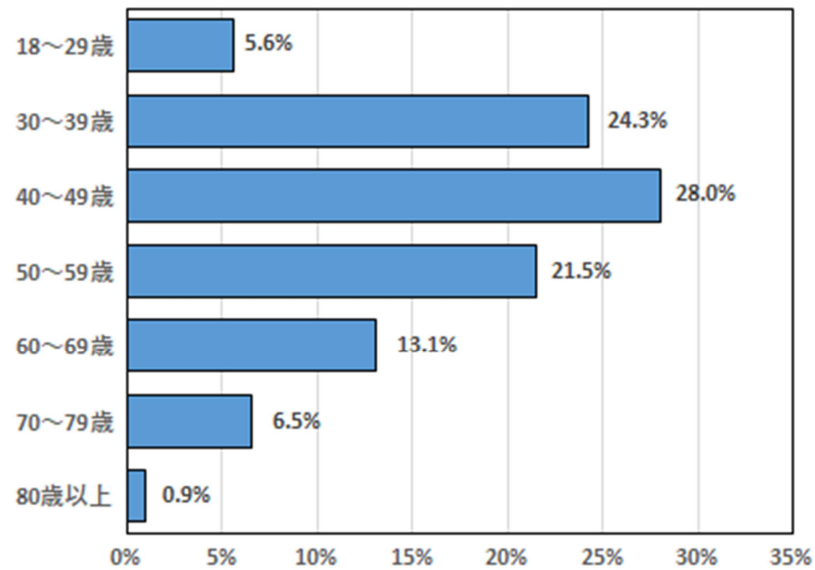
◆あなたの性別は。(SA) 女性N=65, 男性N=42

「女性」が60.7%、「男性」が39.3%となっています。



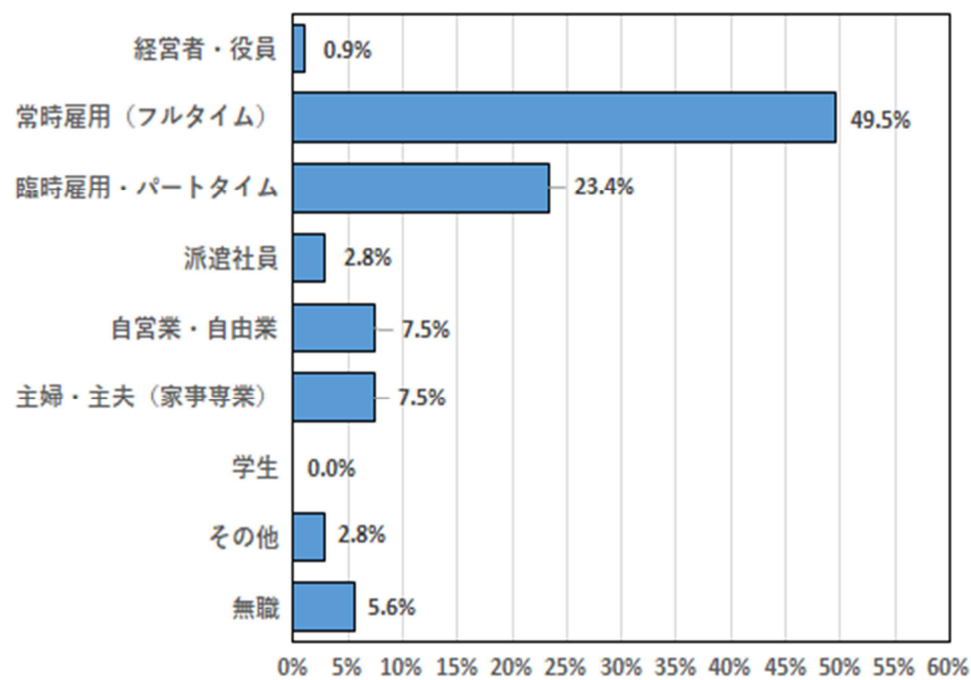
◆あなたの年齢は。(SA)

「40 歳～49 歳」が 28.0%で最も高くなっています。次いで「30 歳～39 歳」が 24.3%、「50 歳～59 歳」が 21.5%で続いています。



◆あなたの現在の勤務形態は、次のうちどれにあたりますか。（SA）

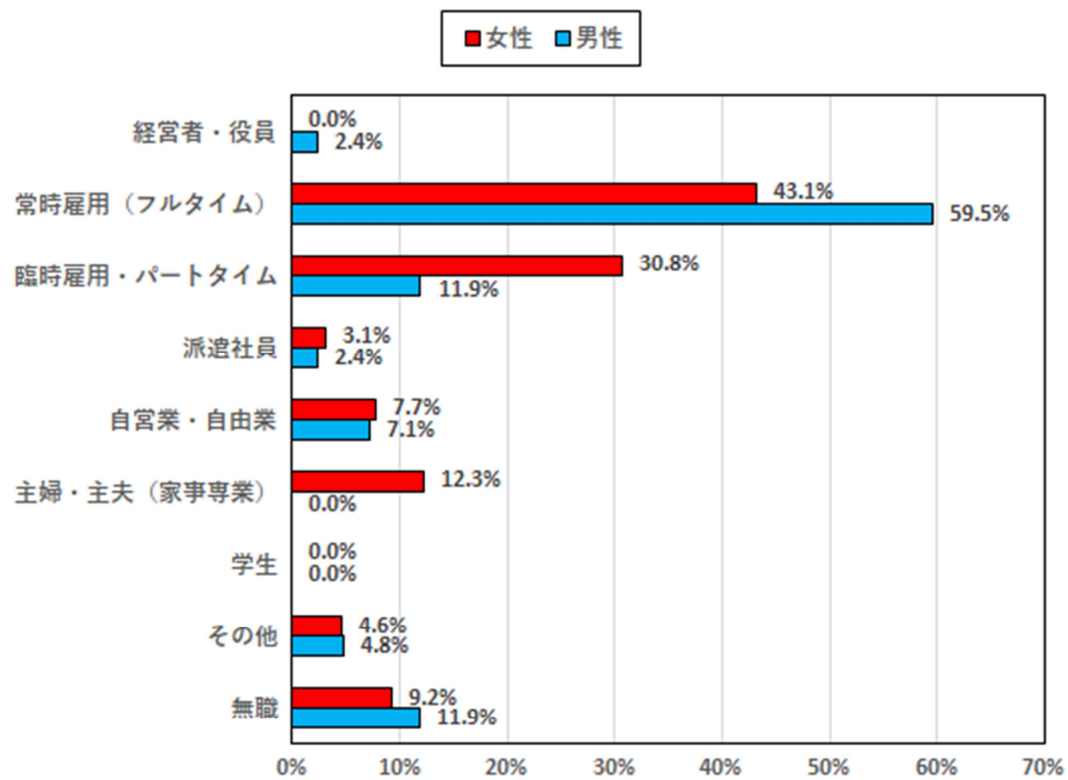
「常時雇用（フルタイム）」が49.5%で最も高くなっています。次いで「臨時雇用・パートタイム」が23.4%となっています。



《勤務形態》 × 《性別》 女性 N=65, 男性 N=42

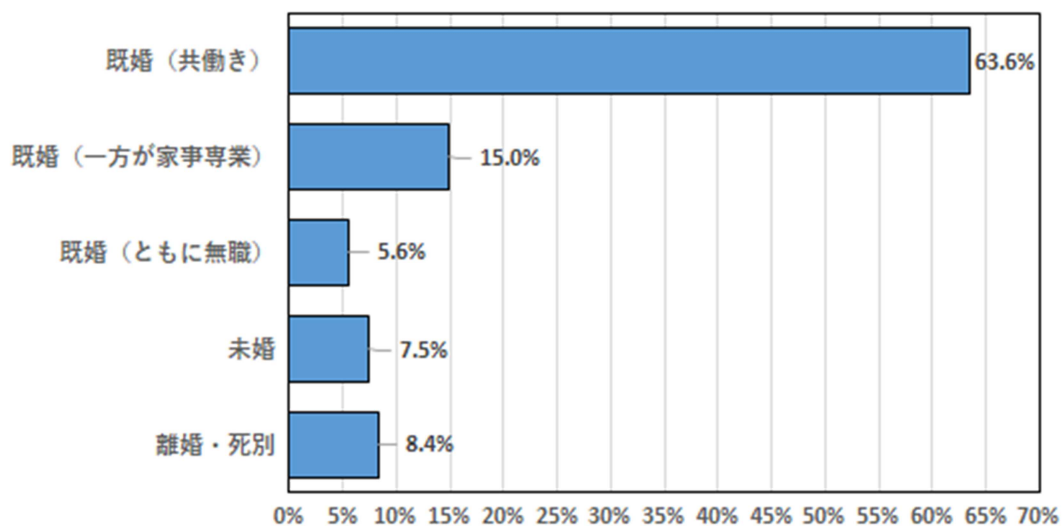
男女とも「常時雇用（フルタイム）」が最も高くなっています。

「臨時雇用・パートタイム」は女性が高く、家事専業は女性のみとなっています。



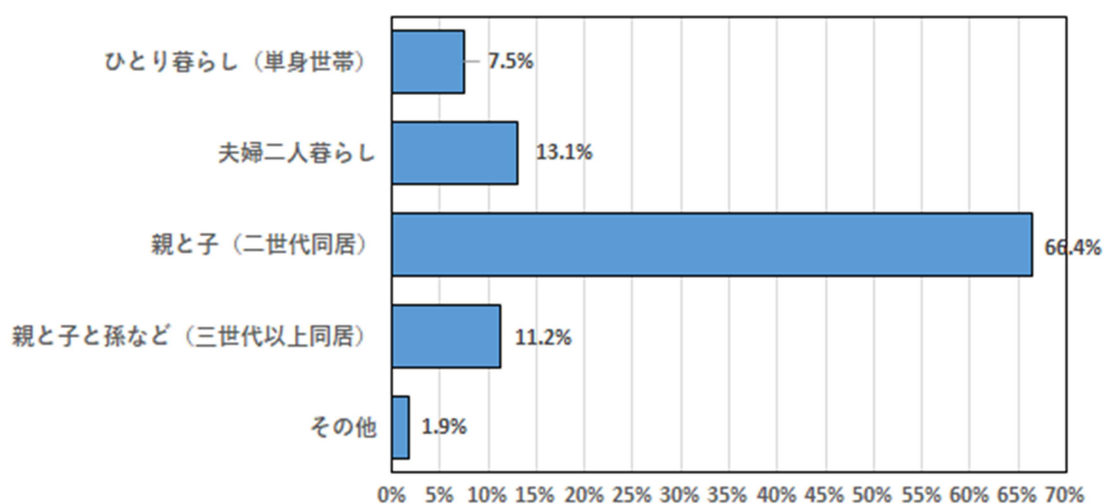
◆結婚（事実婚を含む）の経験（SA）

「既婚（事実婚含む）」が84.2%を占めています。



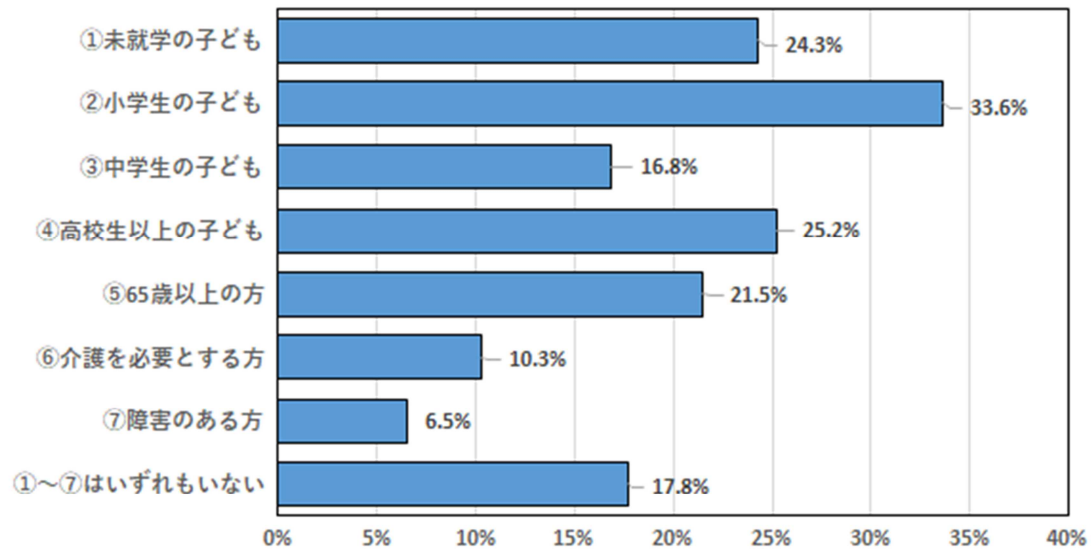
◆あなたの家族の構成は次のどれですか。（SA）

「親と子（二世世代同居）」が66.4%で最も高くなっています。次いで「夫婦二人暮らし」が13.1%、「親と子と孫など（三世代以上同居）」が11.2%が続いています。



◆あなたが現在一緒に住んでいるご家族の中に、次のような方（あなた自身も含む）はいますか。（MA）

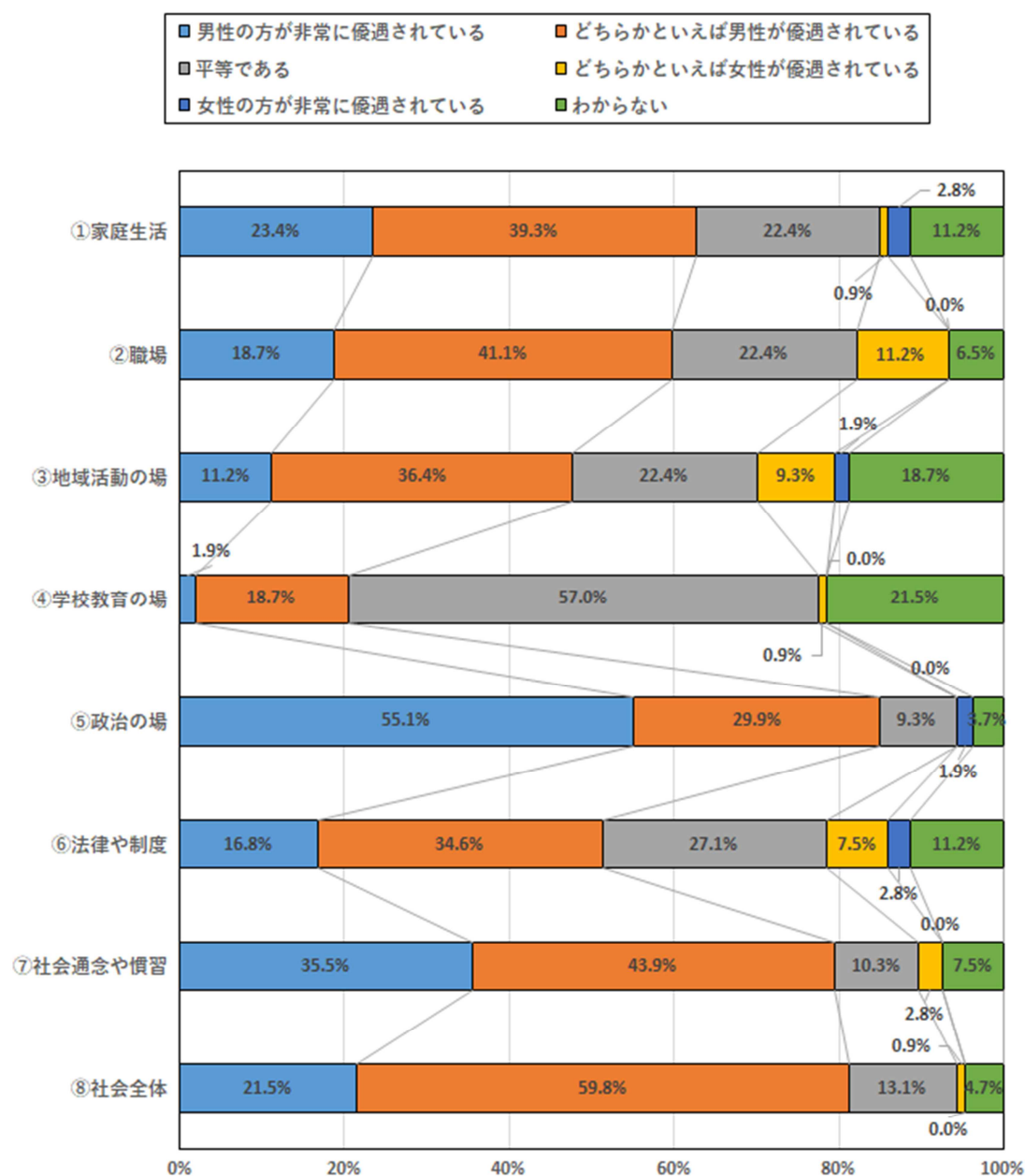
「小学生の子ども」が33.6%で最も高くなっています。次いで「高校生以上の子ども」が25.2%、「未就学の子ども」が24.3%が続いています。



男女平等に関する意識についておたずねします。

問１ あなたは、次にあげるような分野で、男性と女性は平等になっていると思いますか。（SA）

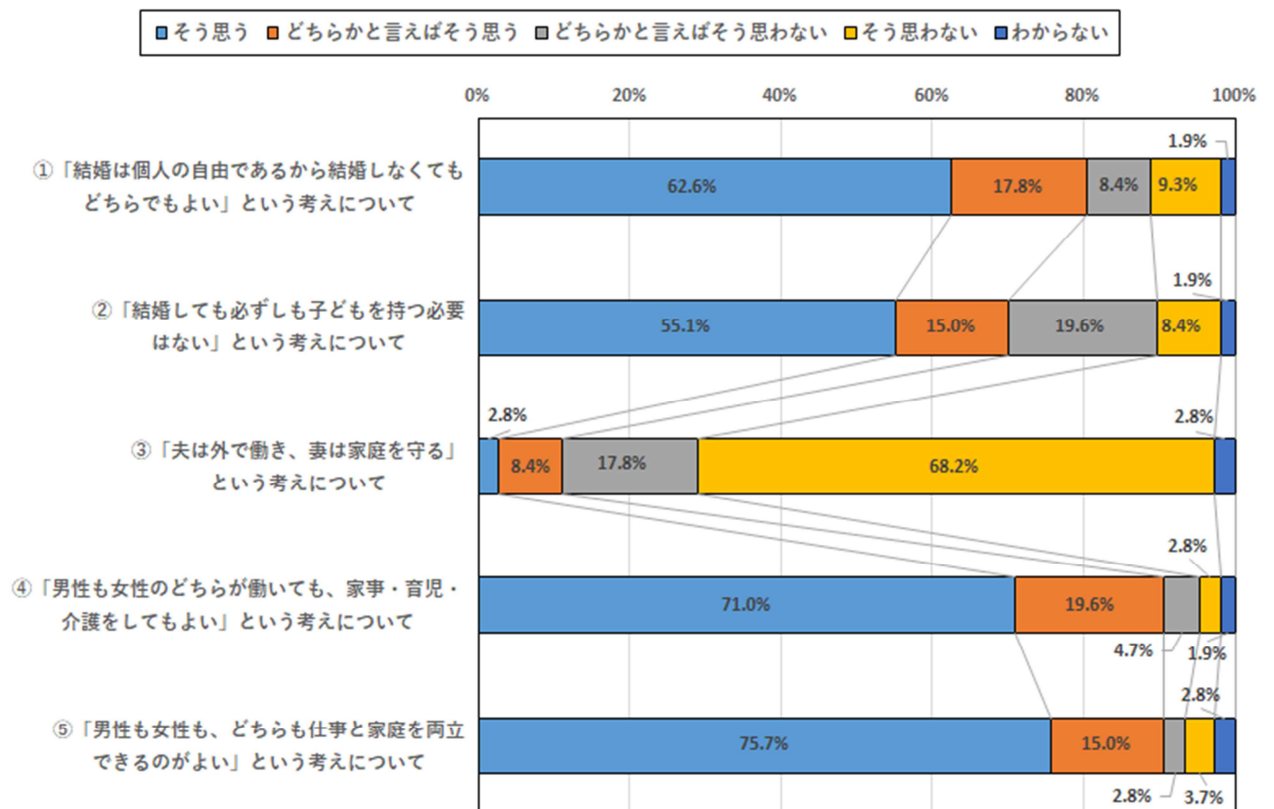
『③ 地域活動の場』と『④ 学校教育の場』以外では「男性の方が優遇されている」が5割を超えており、特に⑤、⑦、⑧では「男性の方が優遇されている」が8割程度となっています。『④ 学校教育の場』では「平等である」の割合が最も高くなっています。「女性の方が優遇されている」という項目はありませんでした。



家庭生活についておたずねします。

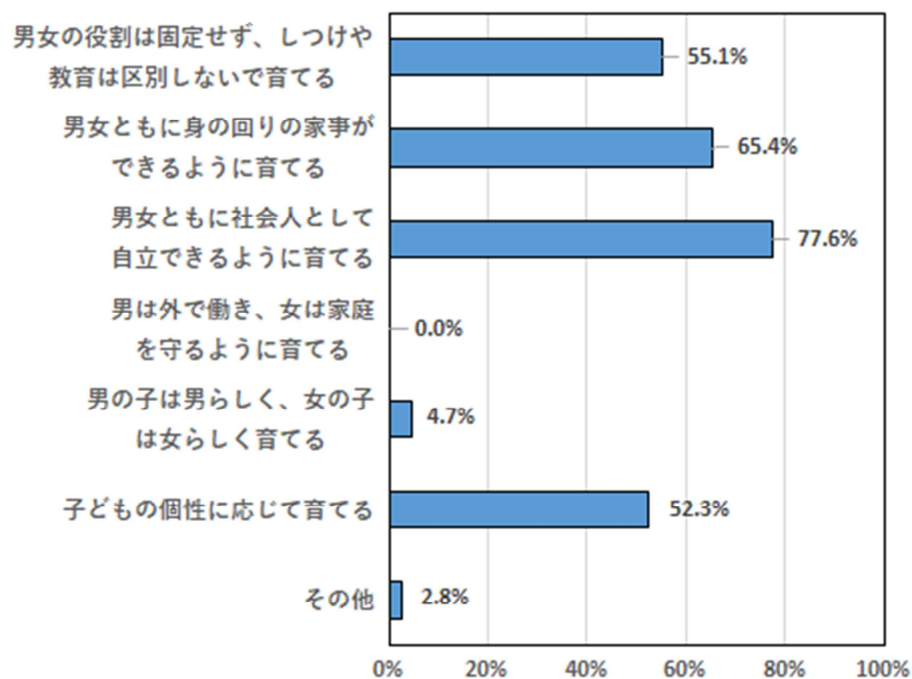
問2 あなたは、結婚と家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。（SA）

「そう思う」の割合が高い順に『⑤ 男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい』、『④ 男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよい』、『① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』、『② 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない』となっています。『③ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（「男は仕事、女は家庭」という考え方）』は「そう思わない」が68.2%で最も高くなっています。



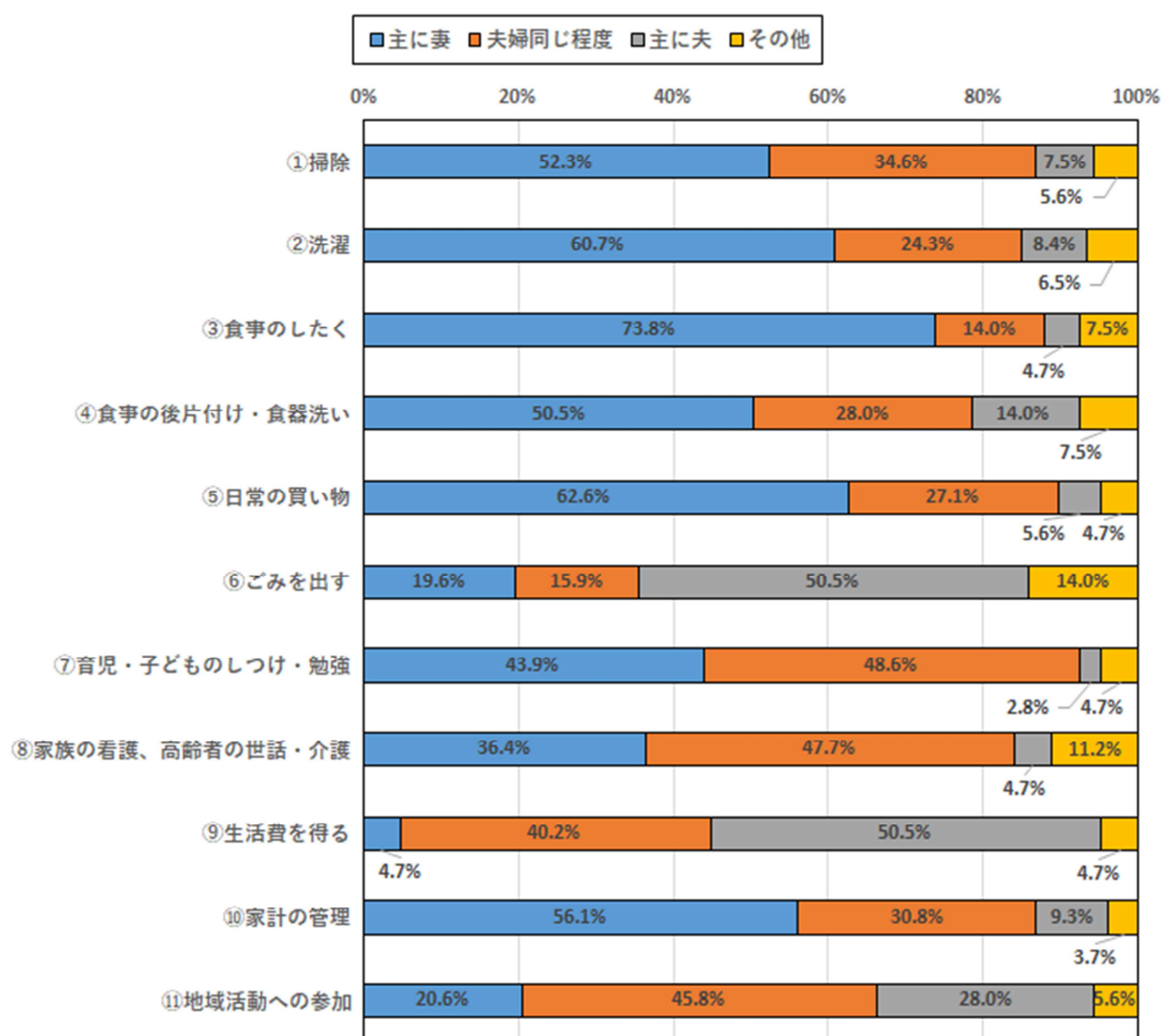
問3 あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。(MA)

「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」が77.6%で最も高くなっています。次いで「男女ともに、身の回りの家事ができるように育てる」が65.4%、「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」が55.1%、「子どもの個性に応じて育てる」が52.3%が続いています。



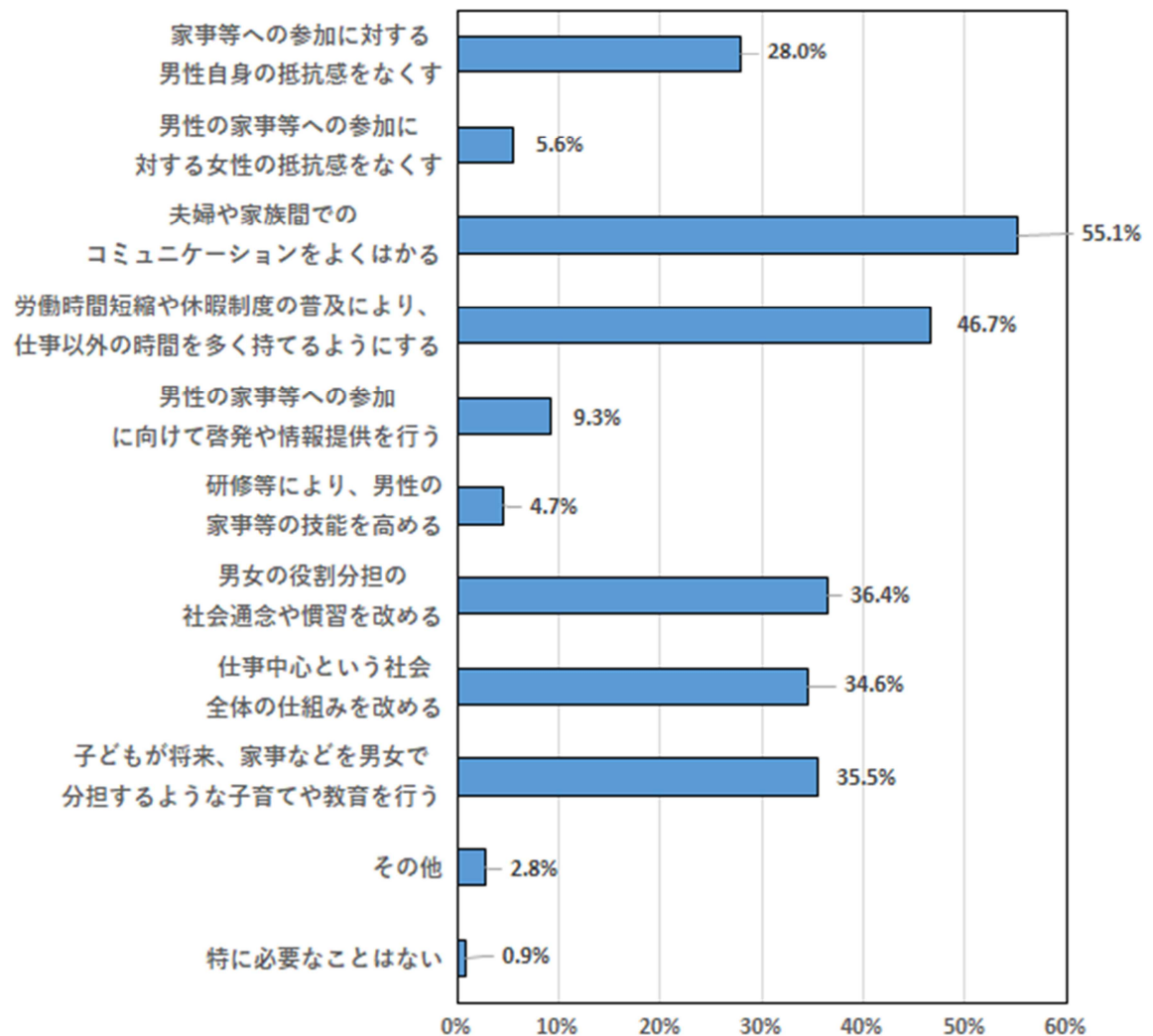
問4 あなたの家庭では、次のような家庭の仕事を主に誰が担っていますか。
(SA)

「主に妻」の割合が高いのは『③ 食事のしたく』、『⑤ 日常の買い物』、『② 洗濯』、の順で6割以上となっています。また『① 掃除』、『④ 食事の後片付け・食器洗い』、『⑦ 育児・子どものしつけ・勉強』、『⑧ 家族の看護、高齢者の世話・介護』、『⑩ 家計の管理』も「主に妻」の割合が高くなっています。『⑥ ごみを出す』と『⑨ 生活費を得る』では「主に夫」の割合が5割以上と高く、『⑪ 地域活動への参加』は最も夫婦のバランスが取れています。



問5 今後、男女がともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためにあなたは、どのようなことが必要だと思いますか。(MA)

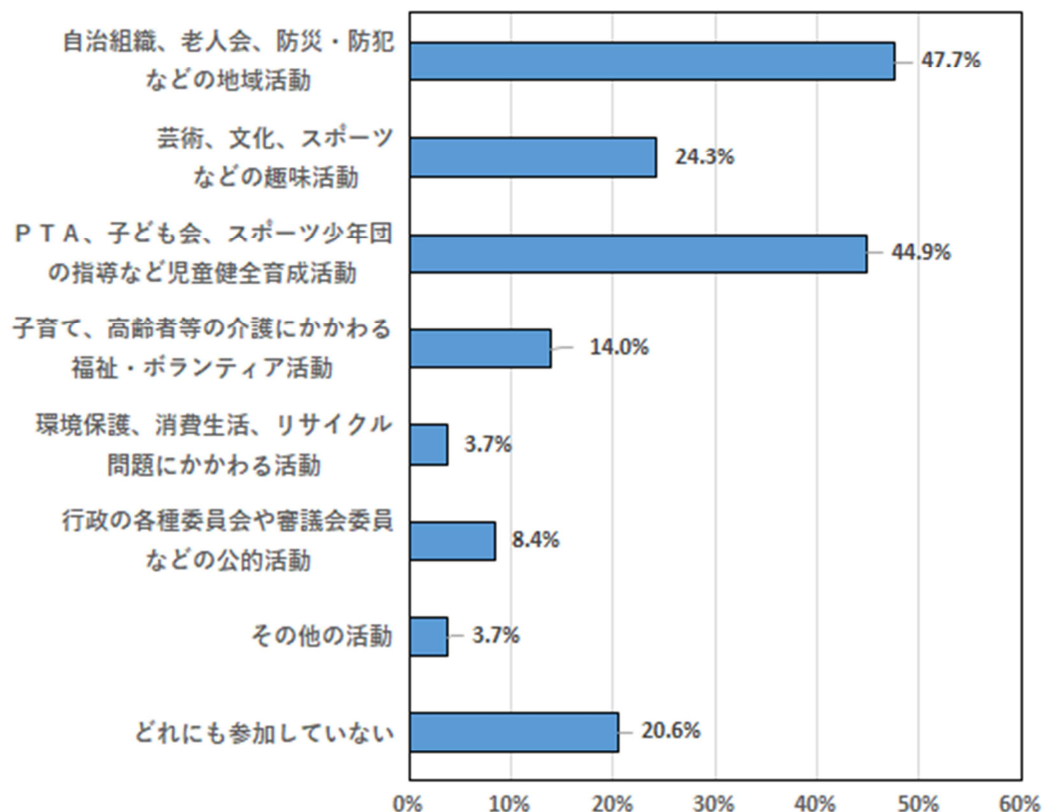
「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が55.1%で最も高くなっています。次いで「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間を多く持てるようにする」が46.7%、「男女の役割分担の社会通念や慣習を改める」が36.4%、「子どもが将来、家事などを男女で分担するような子育てや教育を行う」が35.5%で続いています。



地域活動への参加などについておたずねします。

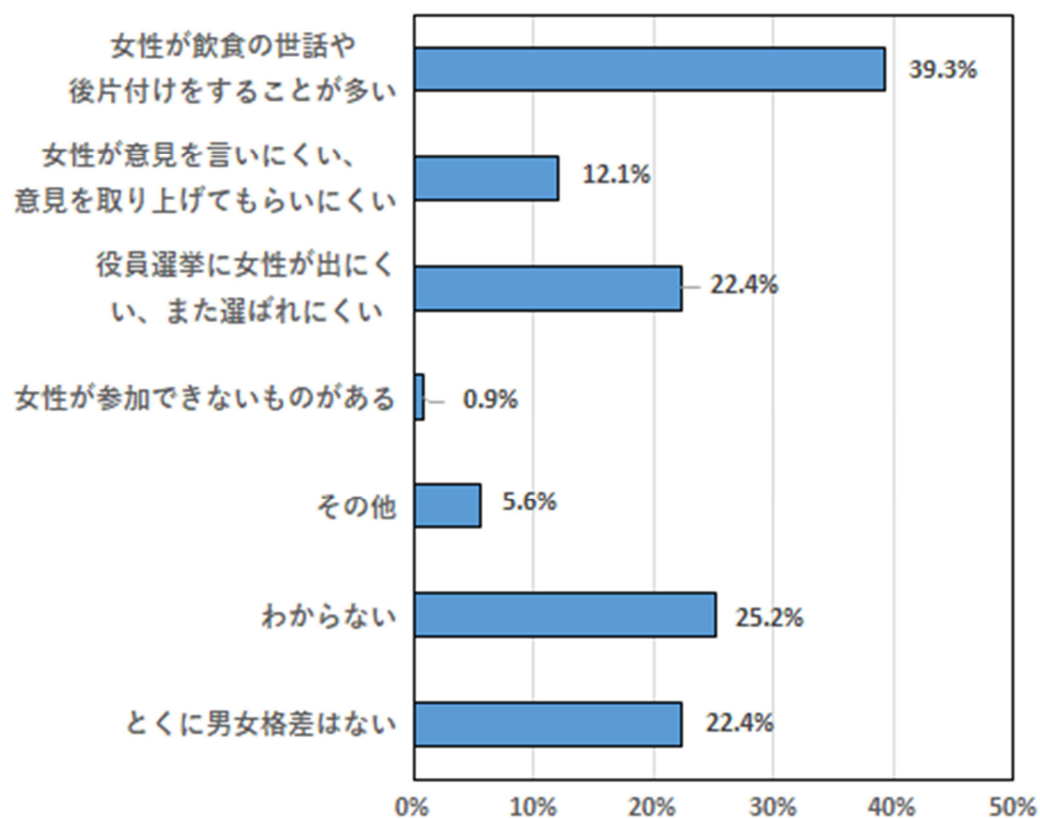
問6 あなたは、現在どのような地域活動に参加していますか。(MA)

「自治組織、老人会、防災・防犯などの地域活動」が47.7%で最も高くなっています。次いで「PTA、子ども会、スポーツ少年団の指導など児童健全育成活動」が44.9%、「芸術、文化、スポーツなどの趣味活動」が24.3%が続いています。



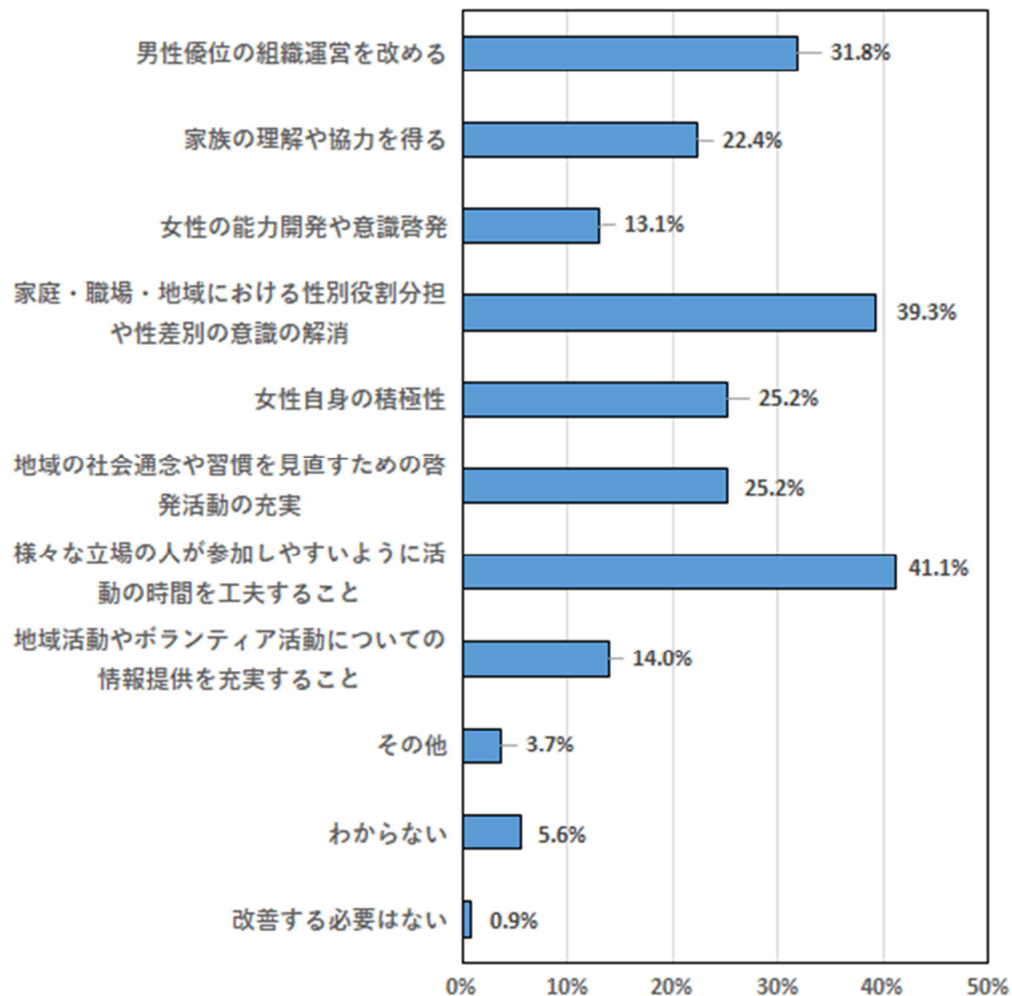
問7 あなたが参加している地域活動において、次のような男女間の格差がありますか。(MA)

「女性が飲食の世話や後片付けをすることが多い」が39.3%で最も高くなっています。次いで「わからない」が25.2%、「役員選挙に女性が出にくい、また選ばれにくい」、「特に男女格差はない」が23.1%で続いています。



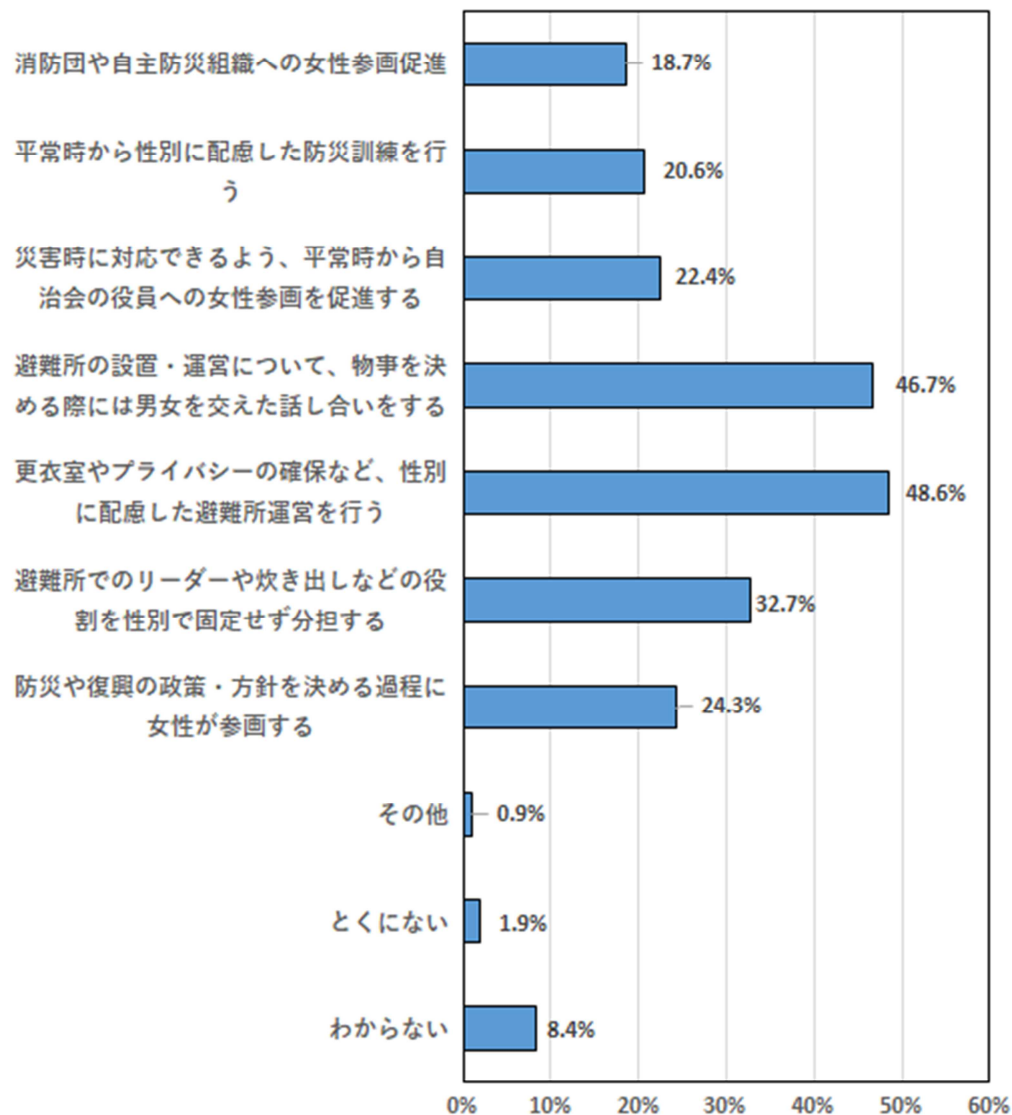
問8 あなたの住んでいる地域での様々な活動において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どの様なことが必要だと思いますか。(MA)

「様々な立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること」が41.1%で最も高くなっています。次いで「家庭・職場・地域における性別役割分担や性差別の意識の解消」が39.3%、「男性優位の組織運営を改める」31.8%が続いています。



問9 あなたは、性別に配慮した防災・災害対応のためには、どのようなことが重要だと思いますか。(MA)

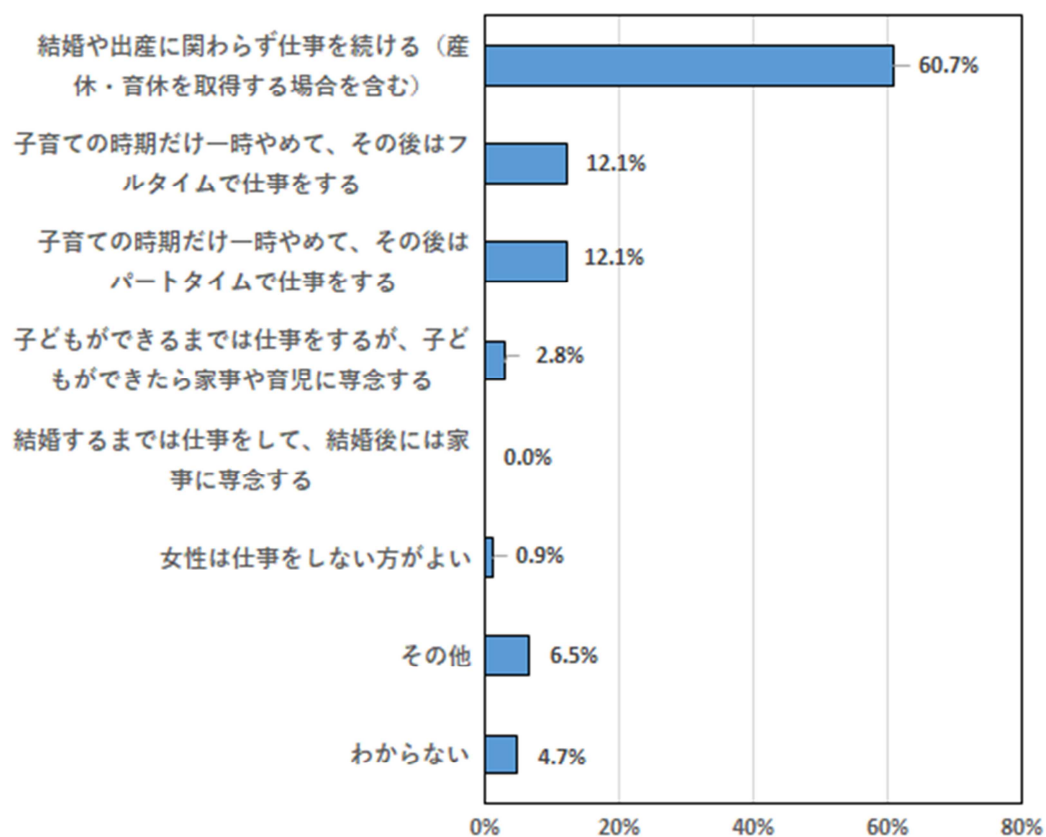
「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」が48.6%で最も高くなっています。次いで「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」が46.7%、「避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を性別で固定せず分担する」が32.7%で続いています。



就労・働き方についておたずねします。

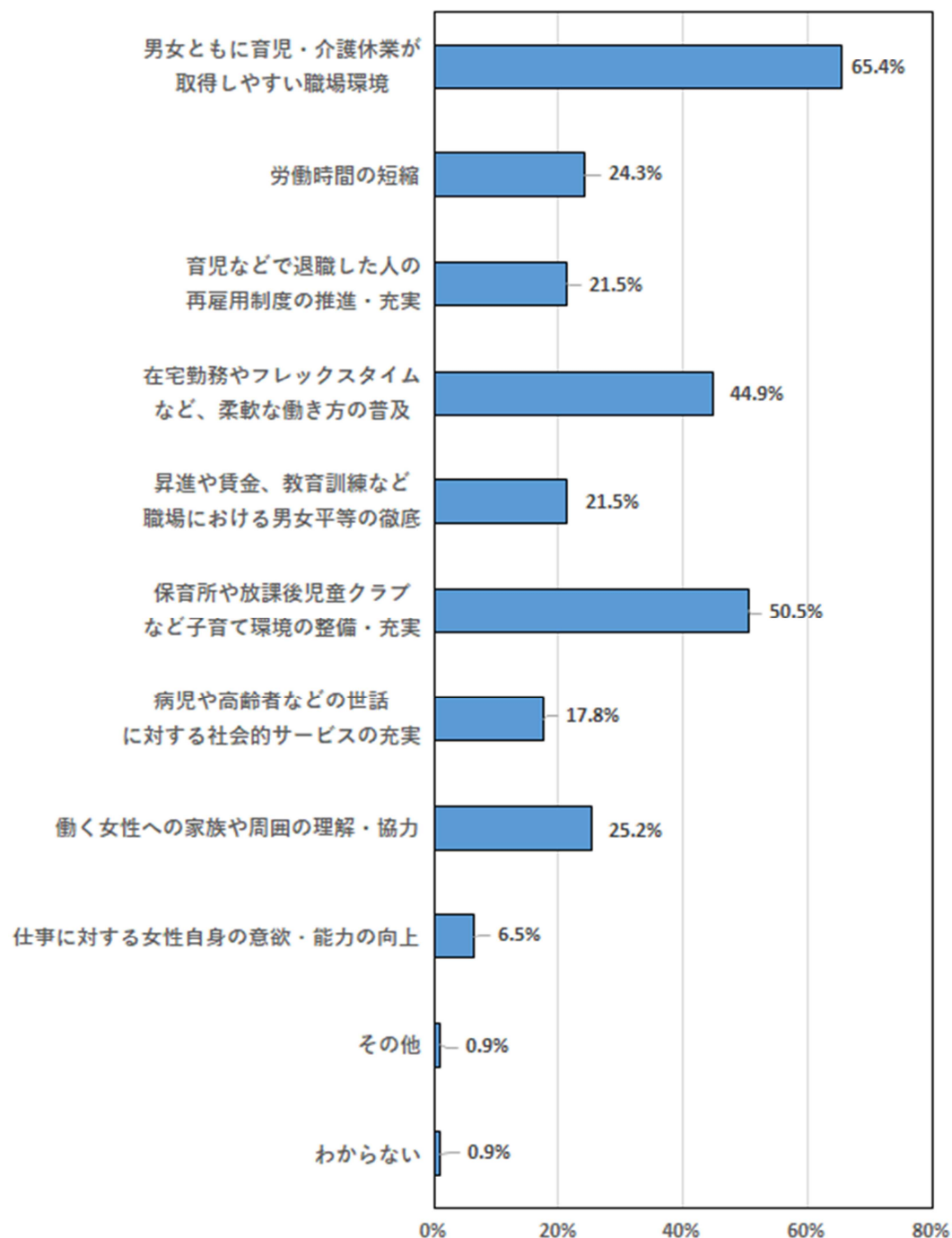
問10 あなたが、女性の望ましい働き方と思うのはどれですか。（SA）

「結婚や出産に関わらず仕事を続ける（産休・育休を取得する場合を含む）」が60.7%で突出しています。「子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事をする」と「子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事をする」が12.1%と続いています。



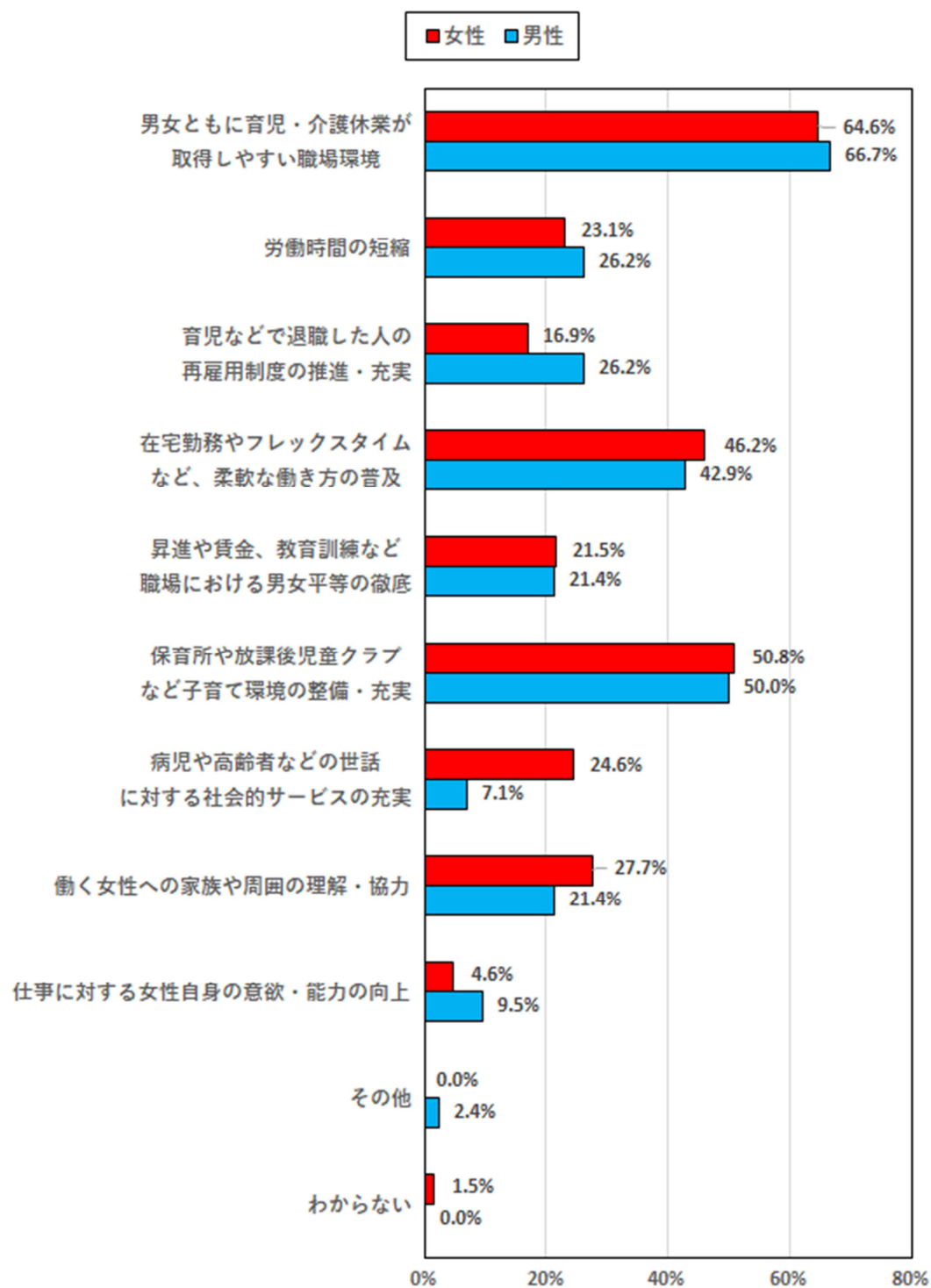
問11 あなたは、女性が働き続けるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(MA)

「男女ともに育児・介護休業が取得しやすい職場環境」が65.4%で最も高くなっています。次いで「保育所や放課後児童クラブなど、子育て環境の整備・充実」が50.5%、「在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方の普及」が44.9%が続いています。



《問 11 女性が働き続けるために必要なこと》×《性別》女性 N=65, 男性 N=42

『女性』は『男性』に比べて「病児や高齢者などの世話に対する社会的サービスの充実」が高くなっています。

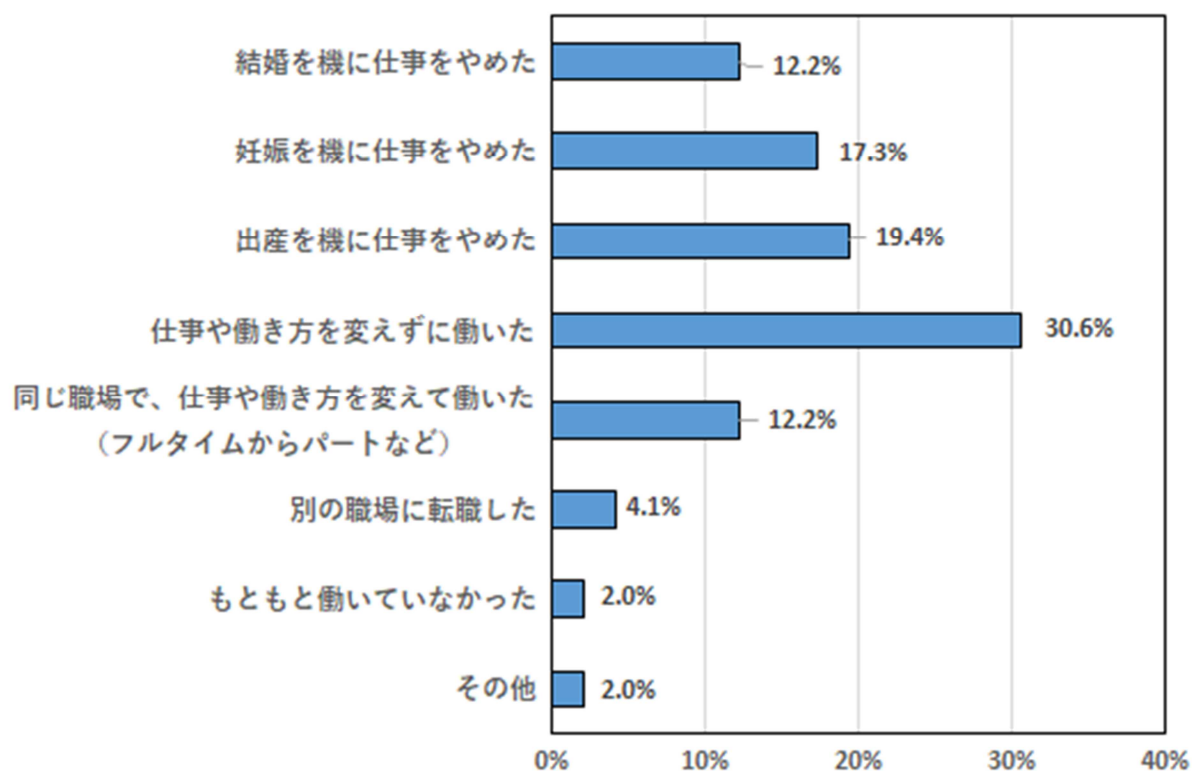


結婚（事実婚含む）されたことがある方におたずねします。

問12 あなたは、これまでに結婚や妊娠・出産の際に、働き方に変化がありましたか（男性の場合は配偶者・パートナーについて回答してください）。（SA）

「仕事や働き方を変えずに働いた」が30.6%で最も高くなっています。次いで「出産を機に仕事をやめた」が19.4%、「妊娠を機に仕事をやめた」が17.3%が続いています。

N=98

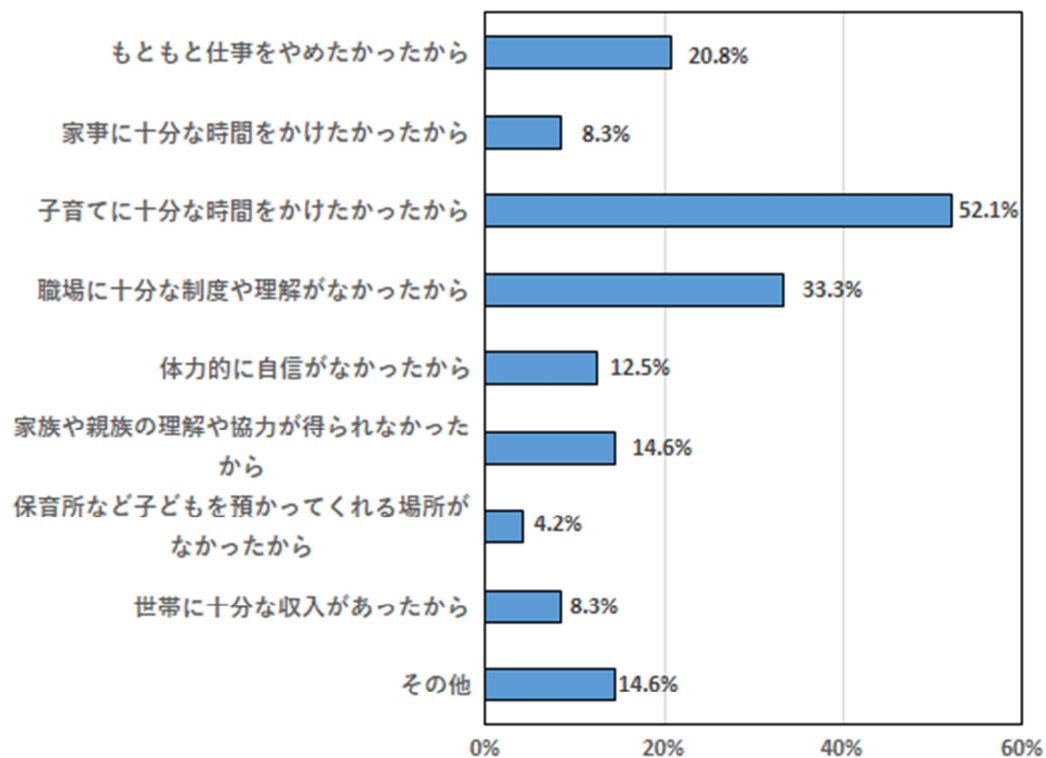


問12で「1」～「3」（結婚・妊娠・出産のいずれかを機に仕事をやめた）と回答した方におたずねします。

問13 仕事をやめた理由は何ですか。（MA）

「子育てに十分な時間をかけたかったから」が52.1%で突出しています。次いで「職場に十分な制度や理解がなかったから」が33.3%が続いています。

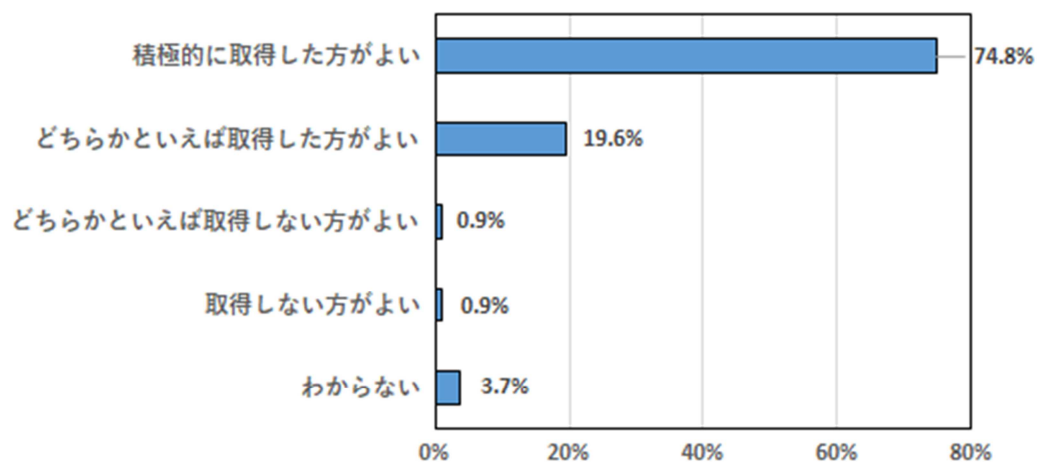
N=48



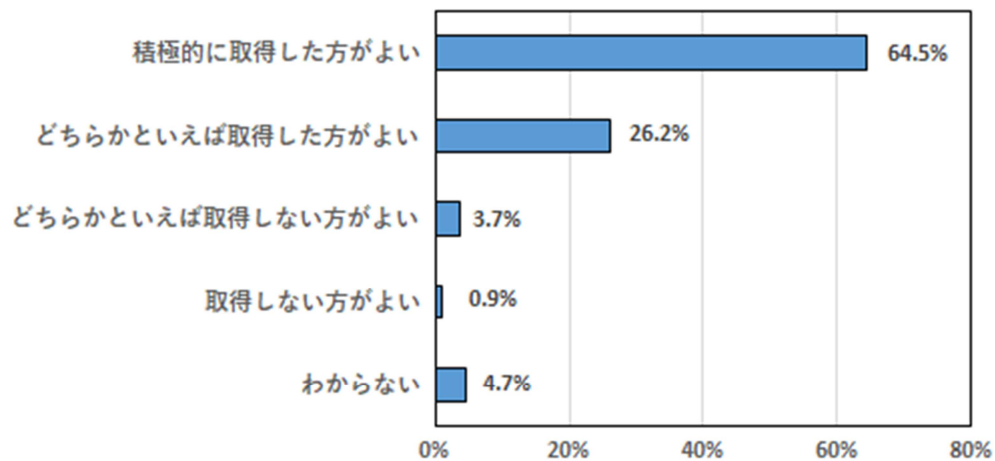
問14 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。男性も子育てに積極的に参加していくため、男性が育児休業や介護休業を取得することについて、あなたはどのように思いますか。
(各SA)

『介護休業』と『育児休業』ともに、「積極的に取得した方がよい」が最も高く、次いで「どちらかといえば取得した方がよい」となっています。どちらも【取得層】（「積極的に取得した方がよい」＋「どちらかといえば取得した方がよい」）が9割を超えています。

《介護休業》



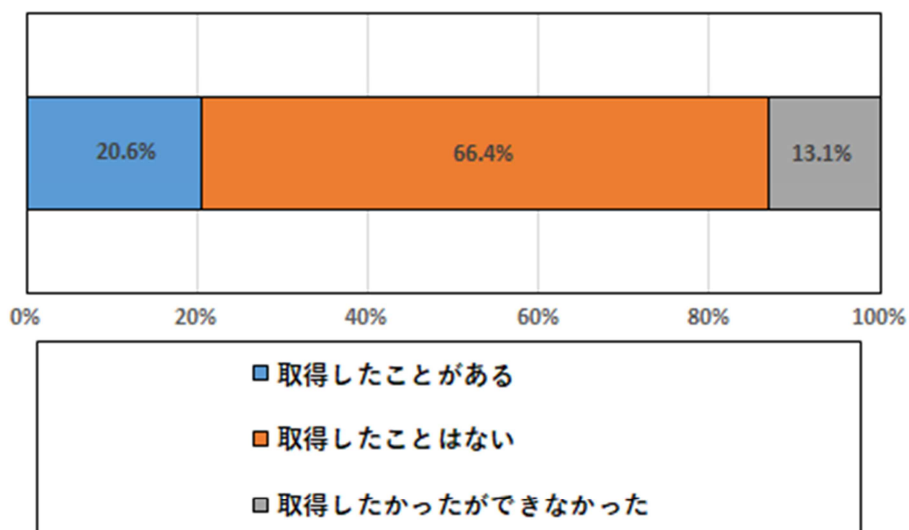
《育児休業》



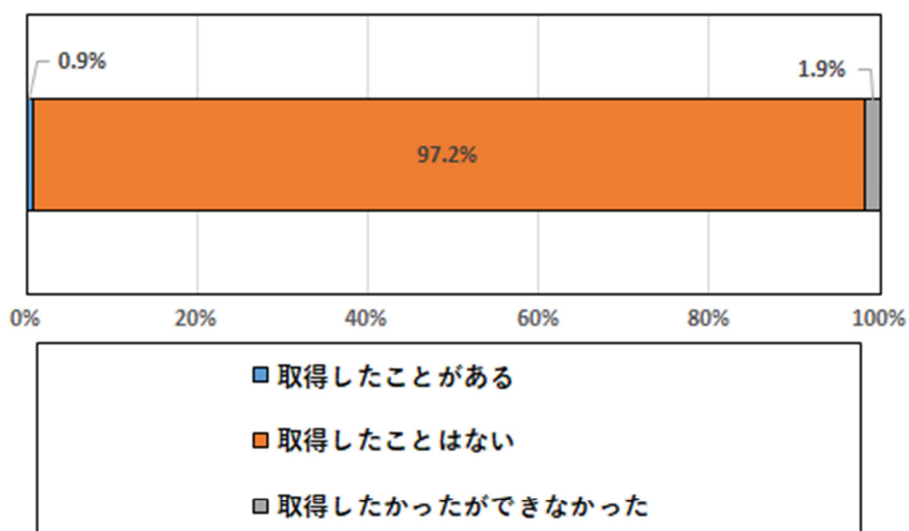
問15 あなたは、これまでに育児休業（産休を除く）や介護休業を取得したことがありますか。（各SA）

『育児休業』と『介護休業』ともに、「取得したことはない」が大半を占めています。

《育児休業》



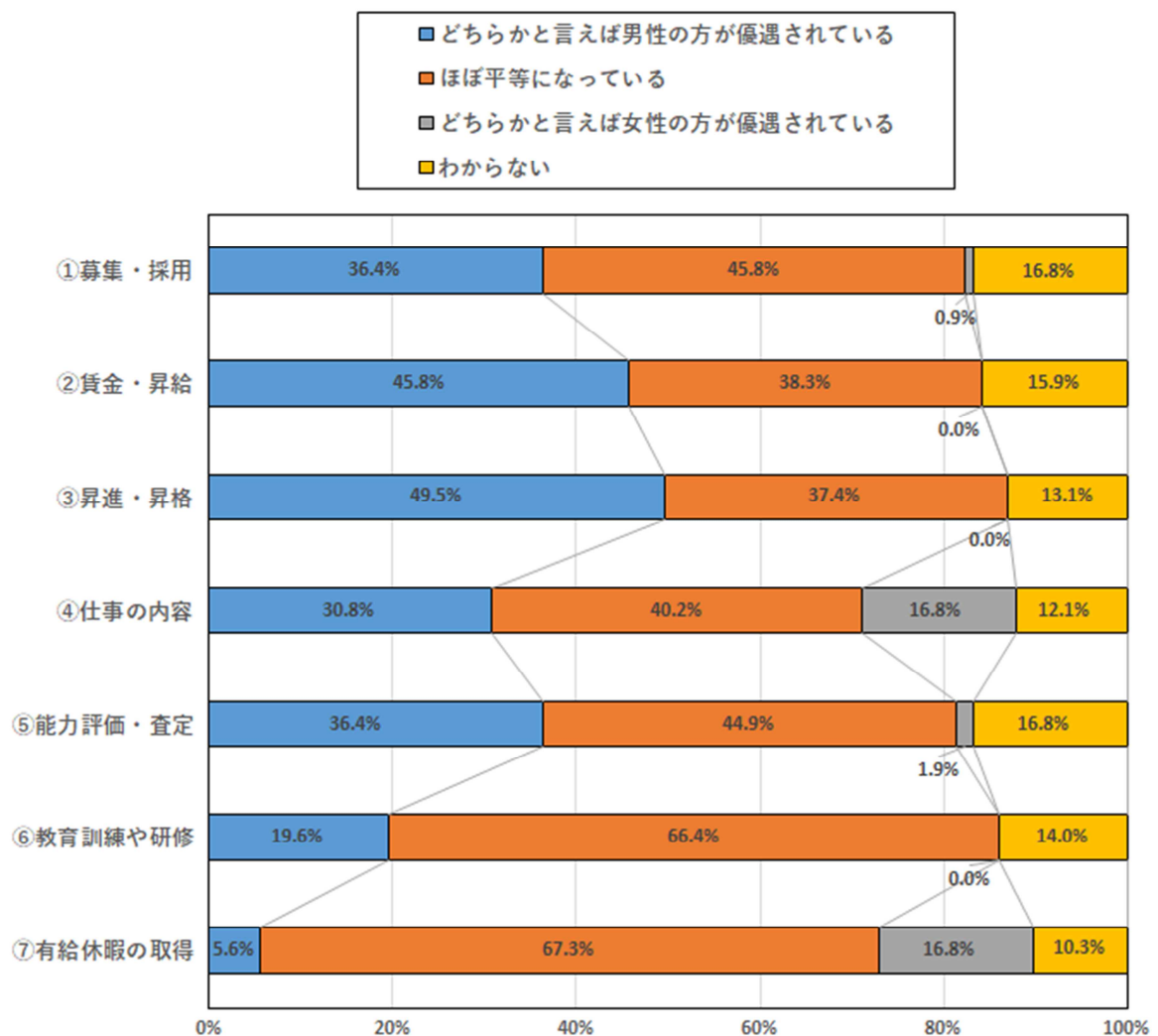
《介護休業》



問16 職場での男女の扱いについて、あなたは、平等になっていると思いますか。
(各SA)

『③ 昇進や昇格』、『② 賃金・昇給』では、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の割合が最も高くなっています。『⑦ 有給休暇の取得』、『⑥ 教育訓練や研修』、『⑤ 能力評価・査定』、『① 募集・採用』、『④ 仕事の内容』では「ほぼ平等になっている」の割合が最も高くなっています。

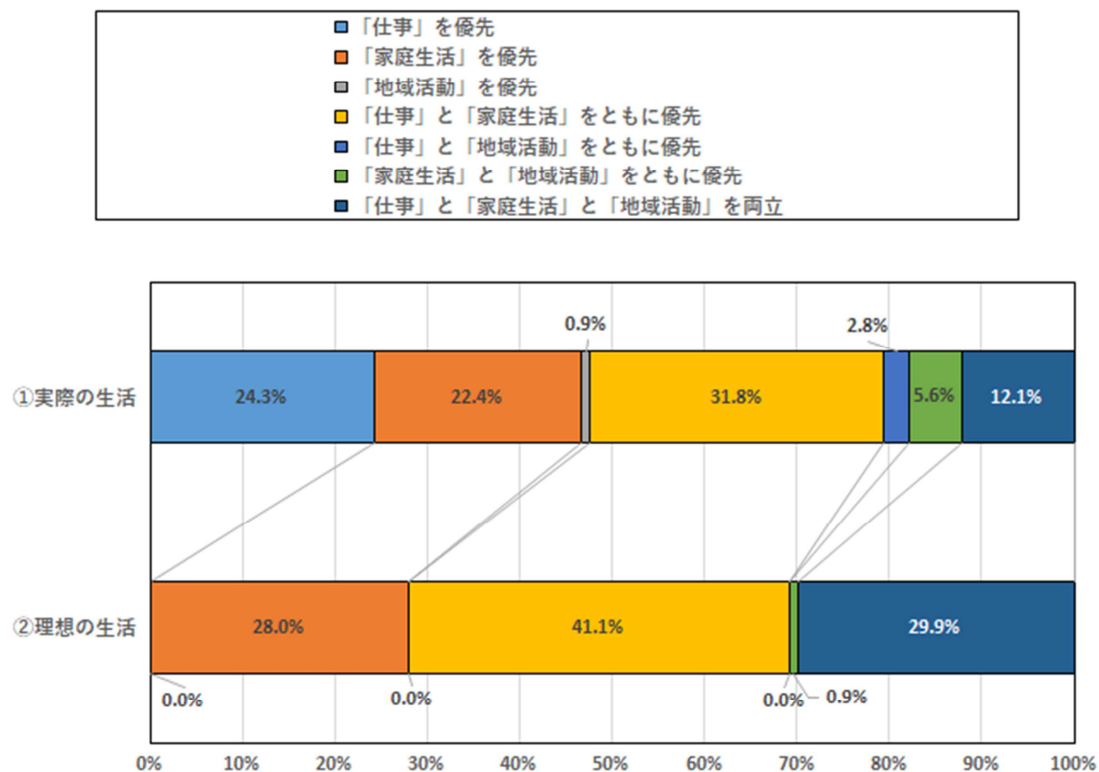
『⑦ 有給休暇の取得』のみ「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」より高くなっています。



問17 あなたの生活は、次のどれにあてはまりますか。（各SA）

① 実際の生活では「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が 31.8%で最も高く、「仕事」を優先」が 24.3%、「家庭生活」を優先」が 22.4%が続いています。

② 理想の生活では「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が 41.1%で最も高く、「仕事」と「家庭生活」と「地域活動」を両立が 29.9%、「家庭生活」を優先」が 28.0%が続いています。

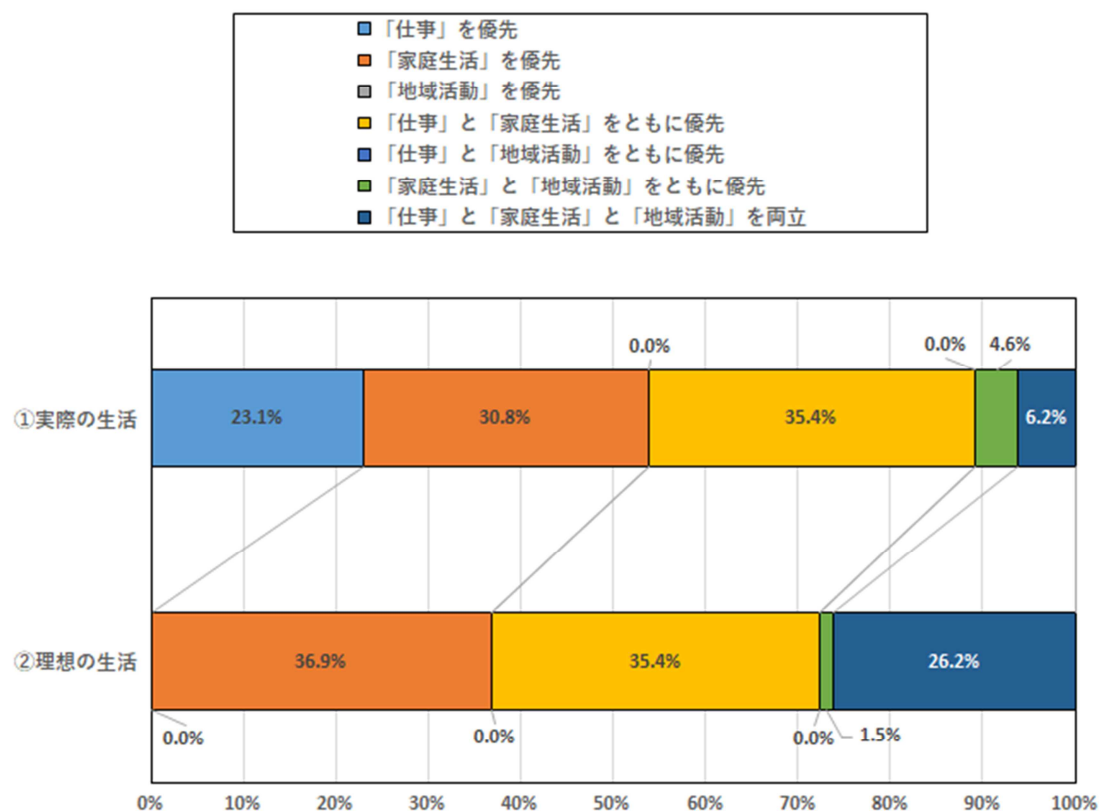


《問 17 実際の生活と理想の生活》×《性別》女性 N=65, 男性 N=42

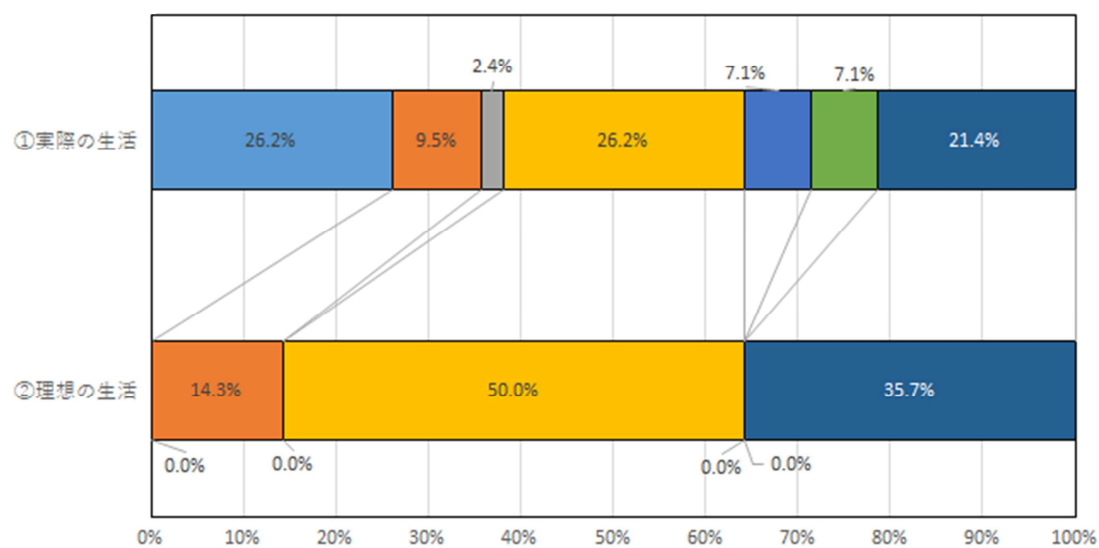
“女性”に比べて“男性”の方が、『実際の生活』において「仕事」と「家庭生活」と「地域活動」を両立」が高くなっています。

“男性”に比べて“女性”の方が、『実際の生活』において「家庭生活」を優先」が高くなっています。

《女性》



《男性》

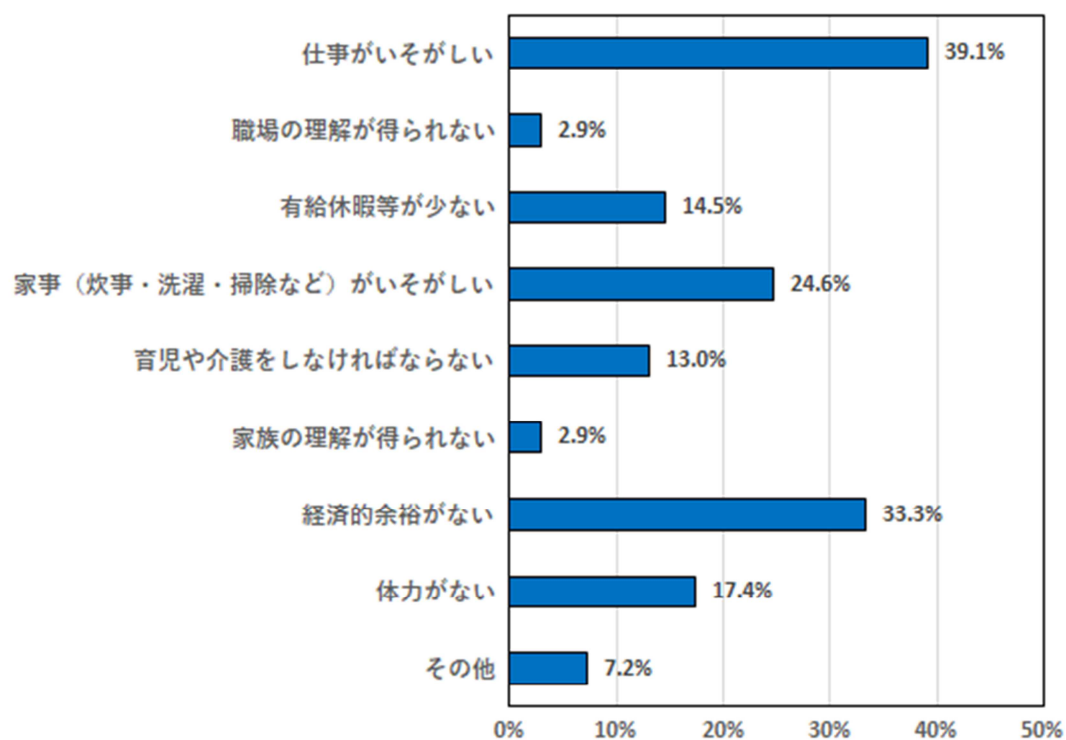


問17の「①実際の生活」と「②理想の生活」が異なる方におたずねします。

問18 「実際の生活」と「理想の生活」が異なる理由は何ですか。（MA）

「仕事が忙しい」が39.1%で最も高くなっています。次いで「経済的余裕がない」が33.3%、「家事（炊事・洗濯・掃除など）がいそがしい」が24.6%が続いています。

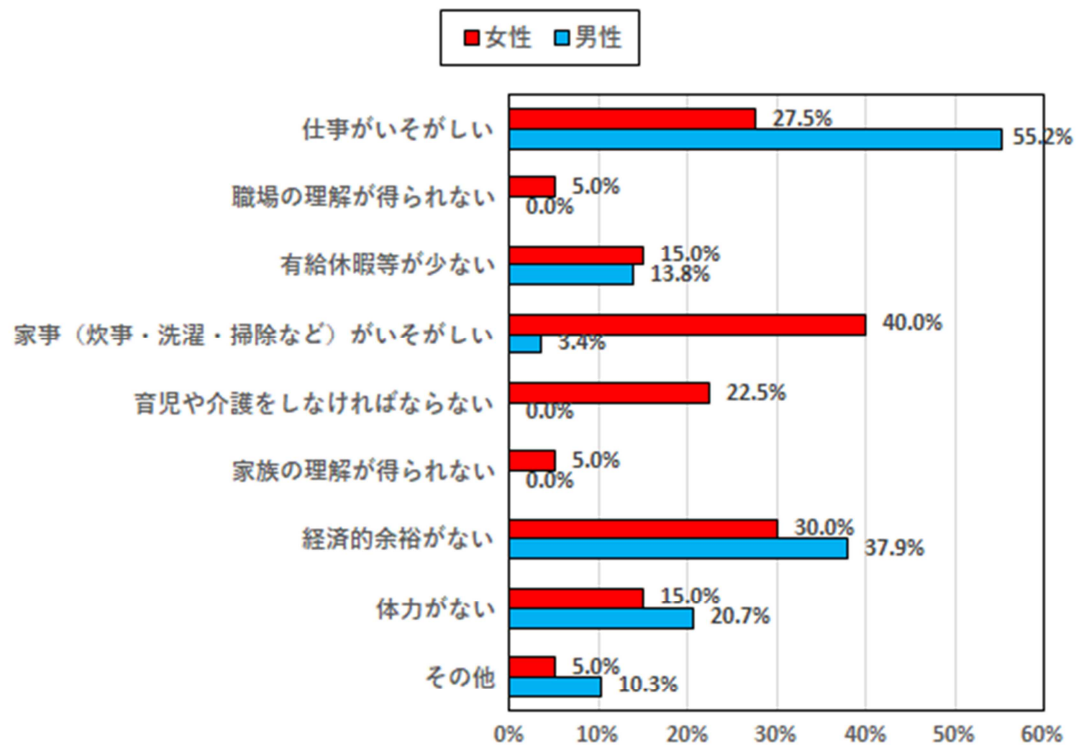
N=69



《問 18 実際の生活と理想の生活が異なる理由》×《性別》女性 N=40, 男性 N=29

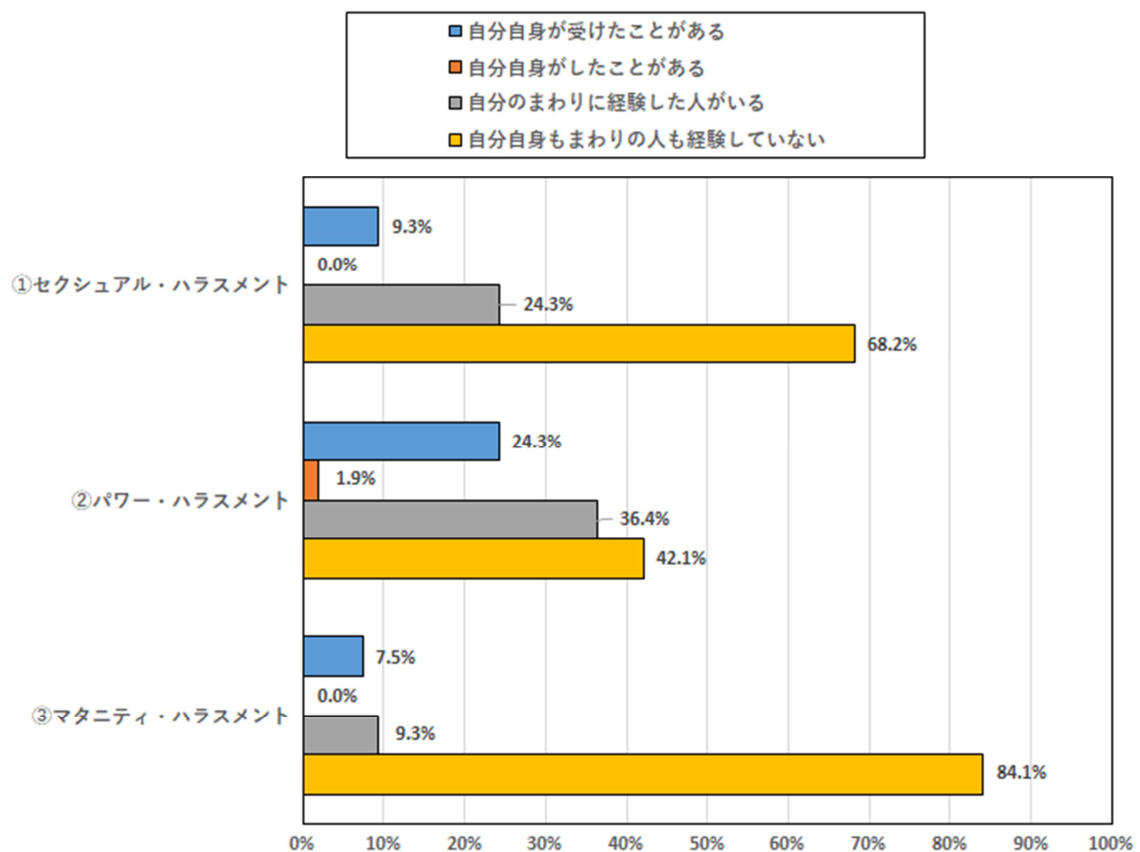
『女性』は『男性』に比べて「家事（炊事・洗濯・掃除など）が忙しい」「育児や介護をしなければならない」が高くなっています。

『男性』は『女性』に比べて「仕事が忙しい」が高く、「経済的余裕がない」、「体力がない」が若干高くなっています。



問19 あなたは、直近（概ね5年以内）で次のような種類のハラスメントを経験したことがありますか。（各MA）

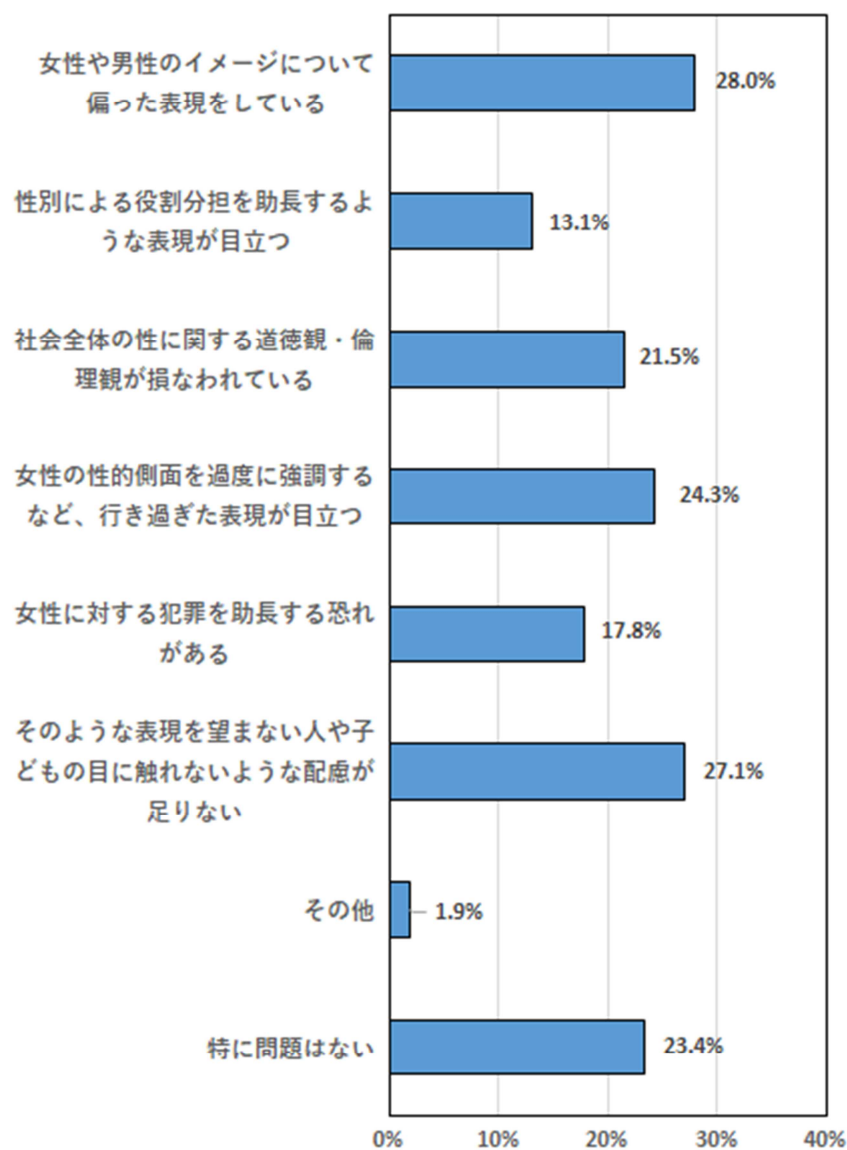
全項目とも「自分自身もまわりの人も経験していない」が高くなっています。その中で、『② パワー・ハラスメント』は「自分のまわりに経験した人がある」が36.4%、「自分自身が受けたことがある」が24.3%で他のハラスメントに比べて高くなっています。また、『① セクシュアル・ハラスメント』、『③ マタニティ・ハラスメント』に関しては「自分のまわりに経験した人がある」と回答された方がそれぞれ24.3%、9.3%となっています。



人権についておたずねします。

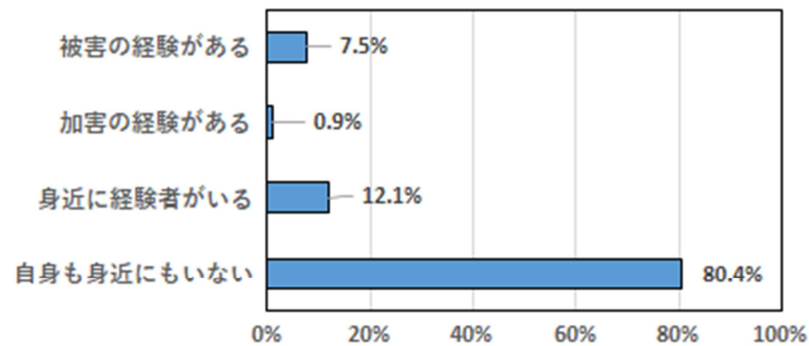
問20 テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように思いますか。（MA）

「女性や男性のイメージについて偏った表現をしている」が28.0%、次いで「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が27.1%、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」が24.3%の順に高くなっています。「特に問題はない」と回答した人が23.4%でした。



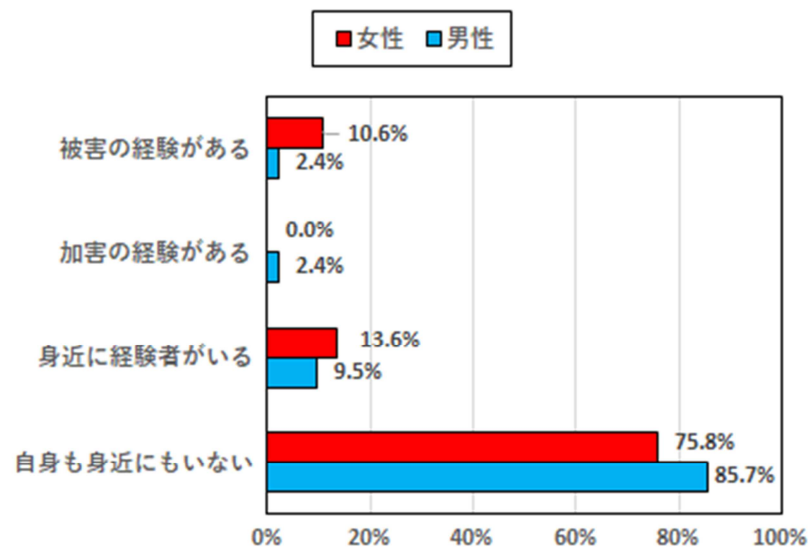
問21 あなたは、直近（概ね5年以内）でドメスティック・バイオレンス（以下「DV」という。）について経験したことがありますか。（MA）

「自分自身も身近にもいない」が80.4%で突出しています。「身近に経験者がいる」が12.1%、「自分自身が受けたことがある」が7.5%で続いています。



《問 21 DVの経験や見聞き》×《性別》女性 N=66, 男性 N=42

『男性』は『女性』に比べて「自分自身も身近にもいない」が若干高くなっています。

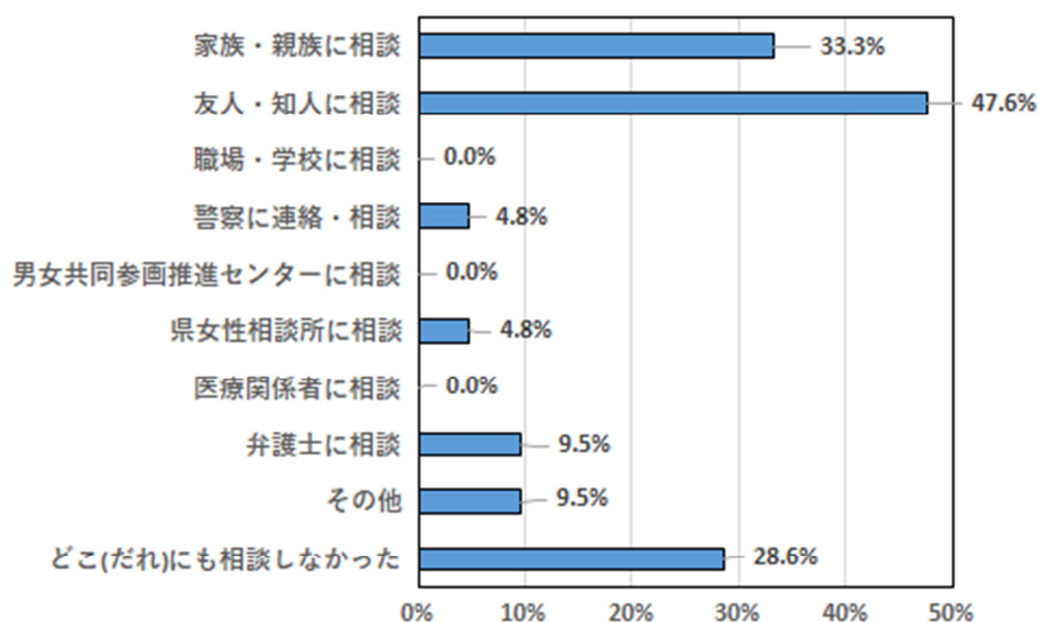


問 21 で「自分自身が受けたことがある」または「自分のまわりに経験した人がある」と回答された方におたずねします。

問22 あなたは、経験したことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(MA)

「友人や知人に相談した」が 47.6%で最も高くなっています。次いで「家族・親族に相談した」が 33.3%、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 28.6%で続いています。

N=21

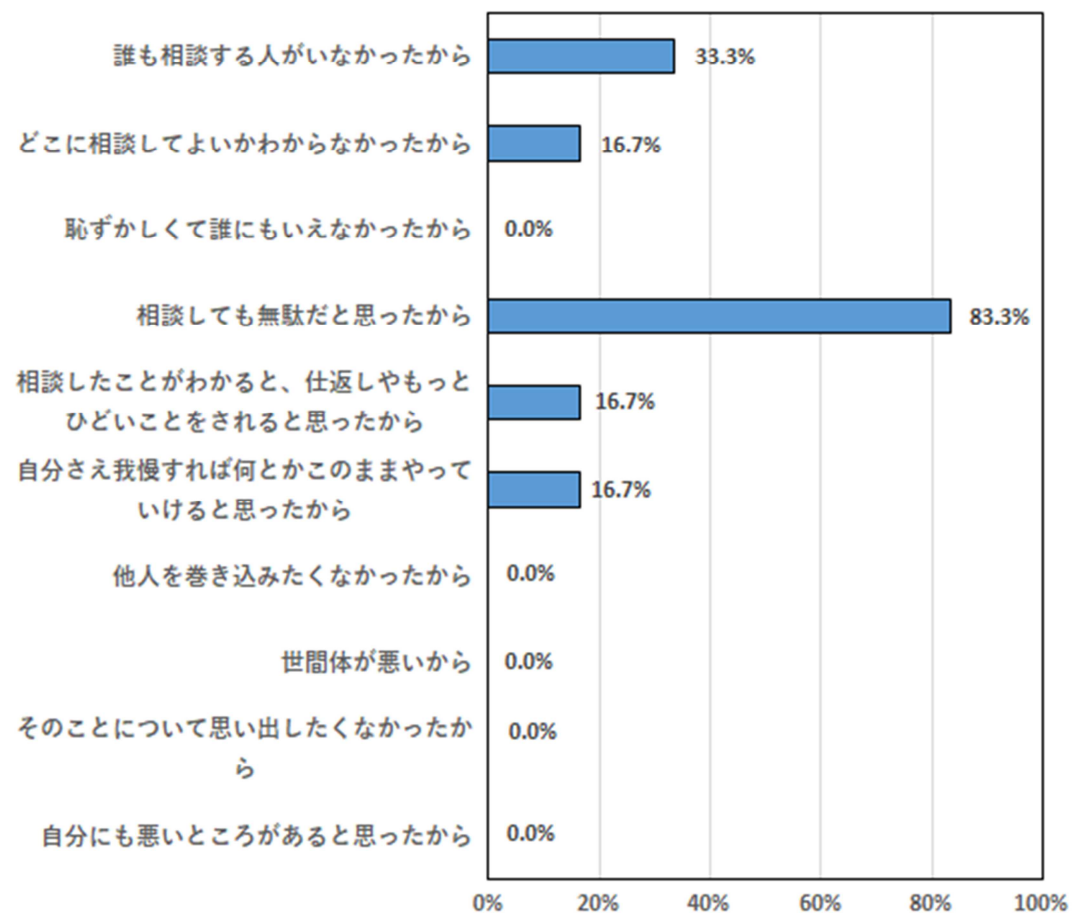


問 22 で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答された方におたずねします。

問23 あなたが「どこ（だれ）にも相談しなかった」のは、どのような理由からですか。（MA）

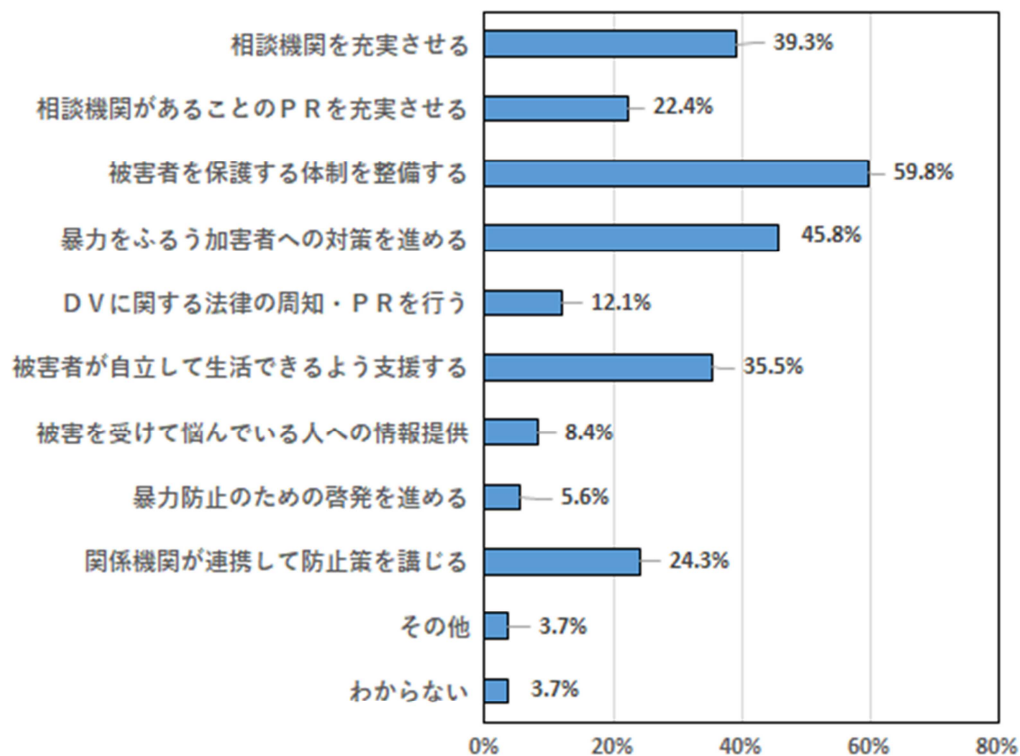
「相談しても無駄だと思ったから」が 83.3%で突出して高くなっています。次いで「誰も相談する人がいなかったから」が 33.3%で続いています。

N=6



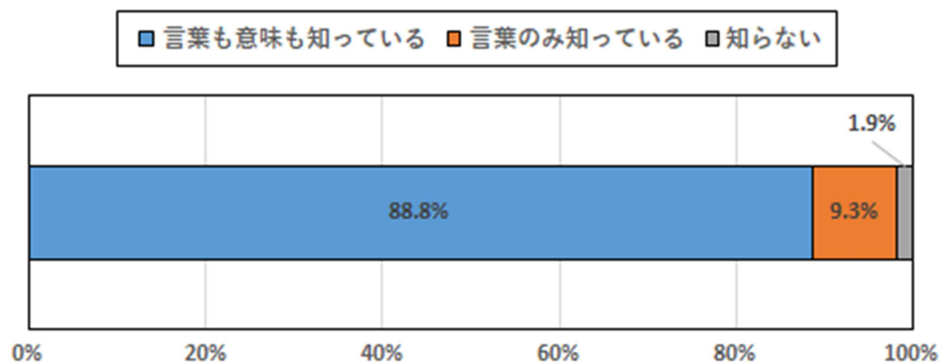
問24 DVに対する取り組みとして、あなたは、どのようなことが必要だと思いますか。(MA)

「被害者を保護する体制を整備する」が59.8%で最も高くなっています。次いで「暴力をふるう加害者への対策を進める」が45.8%、「相談機関を充実させる」が39.3%で続いています。



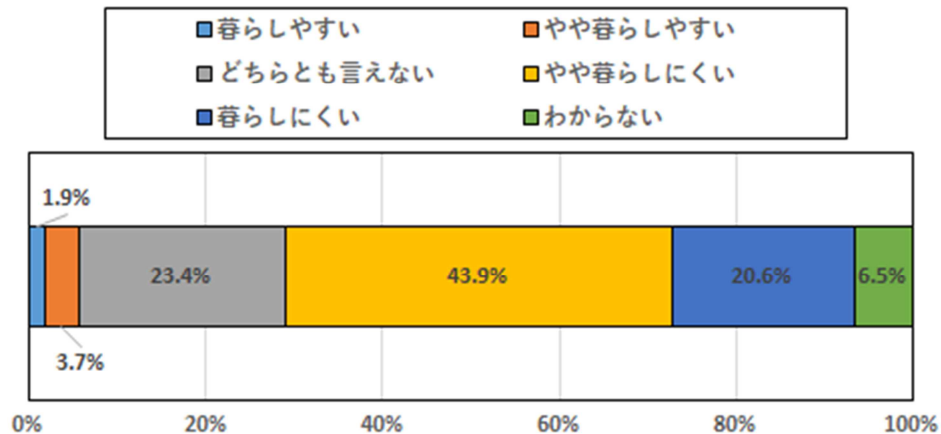
問25 あなたは「性的少数者（性的マイノリティ、セクシュアルマイノリティ、LGBT）」という言葉を知っていますか。また、意味を知っていますか。(SA)

「言葉も意味も知っている」が88.8%で突出して高くなっています。「知らない」と回答した人は1.9%でした。



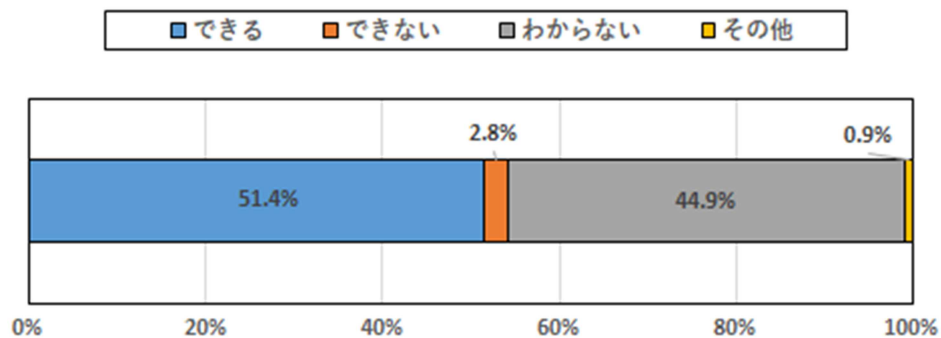
問26 あなたは「性的マイノリティ」にとって、暮らしやすい社会だと思いますか。(SA)

「暮らしやすい」と「やや暮らしやすい」の合計が5.6%に対し、「やや暮らしにくい」と「暮らしにくい」の合計が64.5%と大きな差があります。



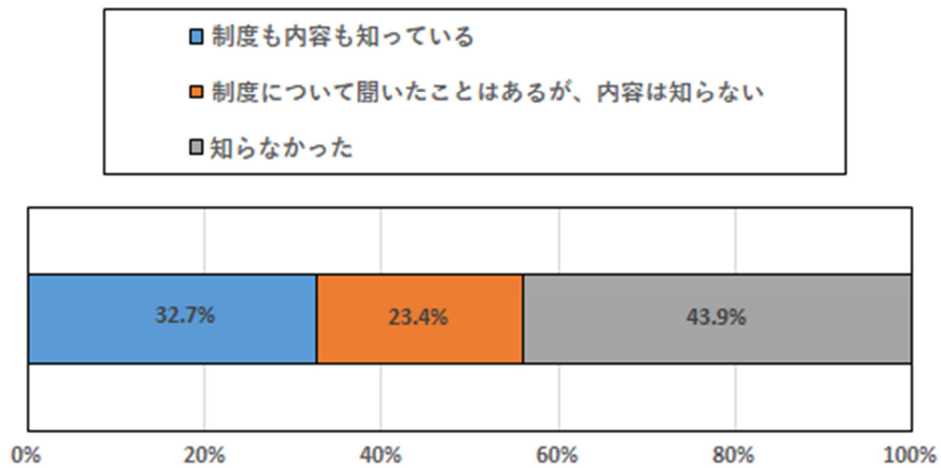
問27 あなたは身近な人(家族・友人など)から性的マイノリティであると打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができますか。(SA)

「できる」が51.4%で最も高くなっています。次いで「わからない」が44.9%が続いています。



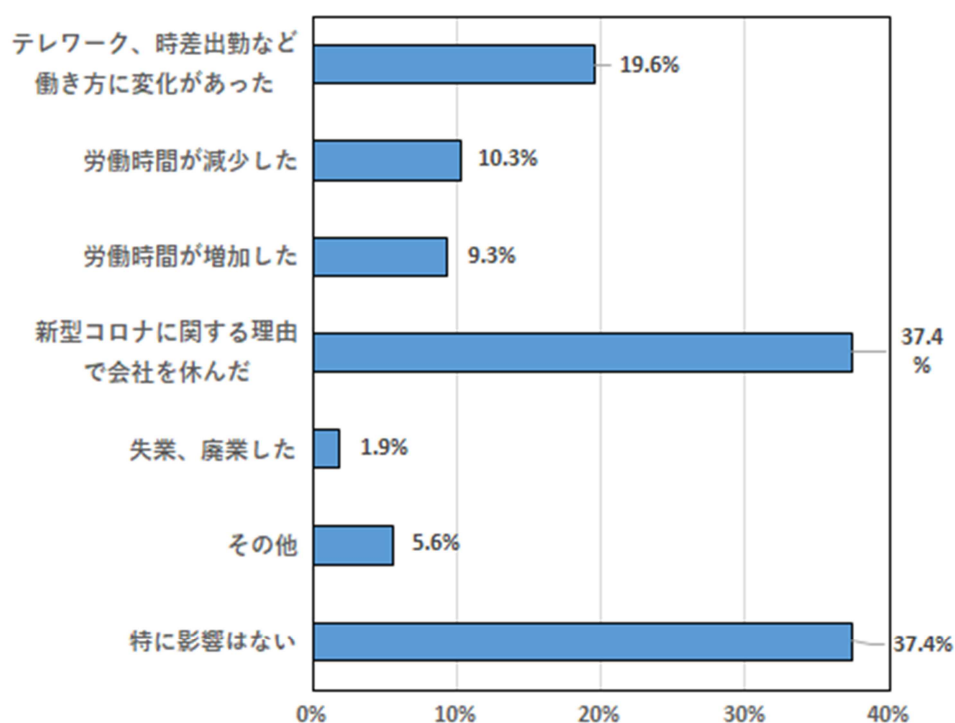
問28 浅口市に「パートナーシップ宣誓制度」があることをご存じでしたか。
(SA)

「知らなかった」が43.9%で最も高くなっています。次いで「制度も内容も知っている」が32.7%で続いています。



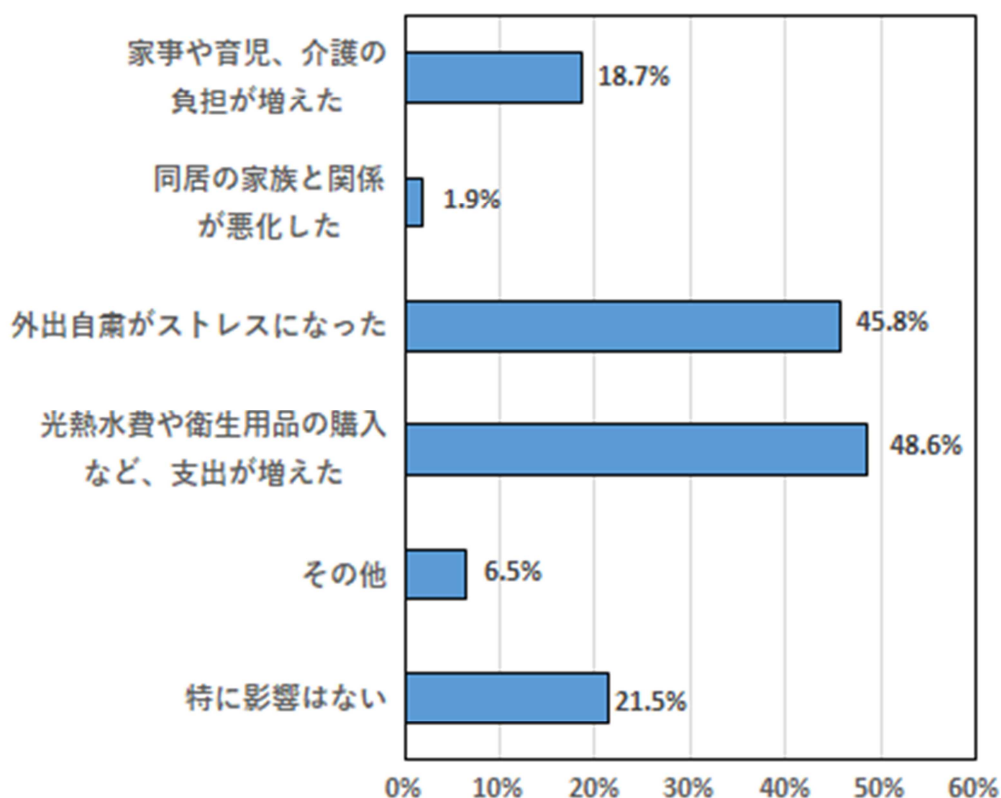
問29 新型コロナウイルス感染症の流行により、仕事において変化したことは何ですか。(MA)

「新型コロナに関する理由で会社を休んだ」と「特に影響はない」がともに37.4%で最も高くなっています。次いで「テレワーク、時差出勤など働き方に变化があった」が19.6%、「労働時間が減少した」が10.3%、「労働時間が増加した」が9.3%の順に高くなっています。



問30 新型コロナウイルス感染症の流行により、生活において変化したことは何ですか。(MA)

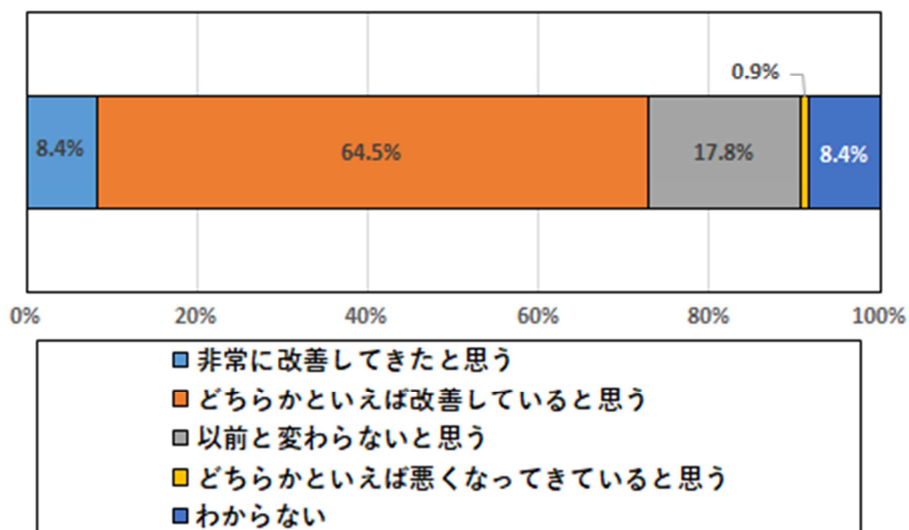
「光熱水費や衛生用品の購入など、支出が増えた」が48.6%と最も高く、次いで「外出自粛がストレスになった」が45.8%、「特に影響はない」が21.5%、「家事や育児、介護の負担が増えた」が18.7%で続いています。



男女共同参画社会についておたずねします。

問31 10年前と比べて、あなたは、女性に対する人権意識や地位は、どの程度改善してきたと思いますか。(SA)

「どちらかといえば改善していると思う」が64.5%で突出しています。「以前と変わらないと思う」が17.8%、「非常に改善してきたと思う」と「わからない」が8.4%が続いています。

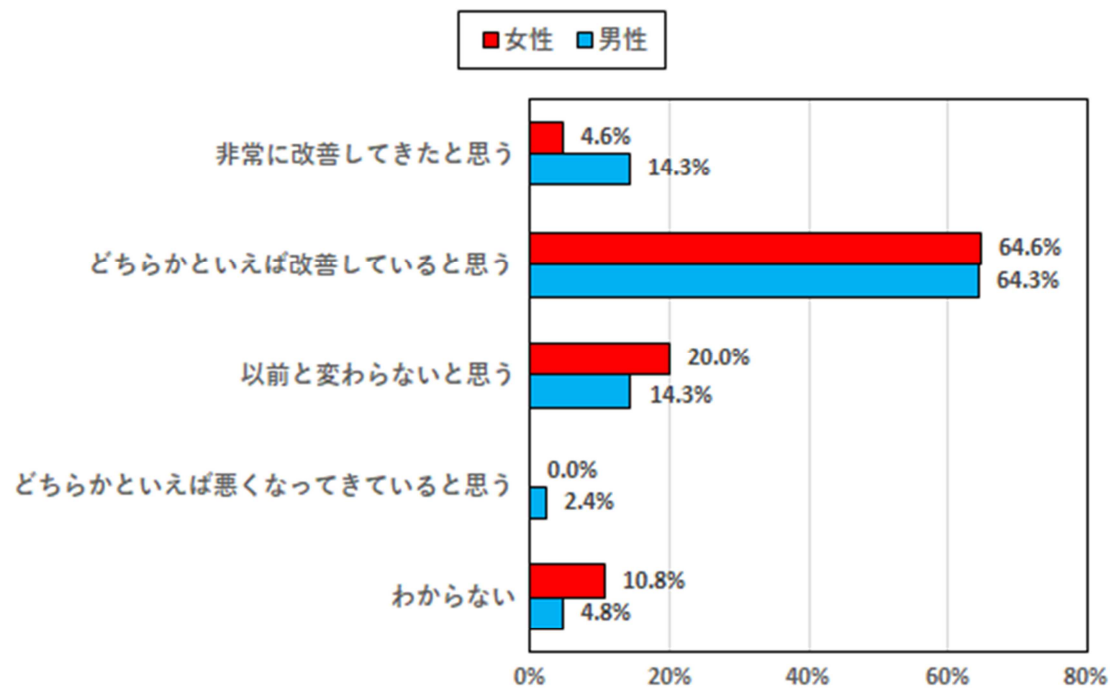


《問 31 女性に対する人権意識の改善》×《性別》女性 N=65, 男性 N=42

『女性』は『男性』に比べて「以前と変わらないと思う」が若干高くなっています。

『男性』は『女性』に比べて「非常に改善してきたと思う」が高くなっています。

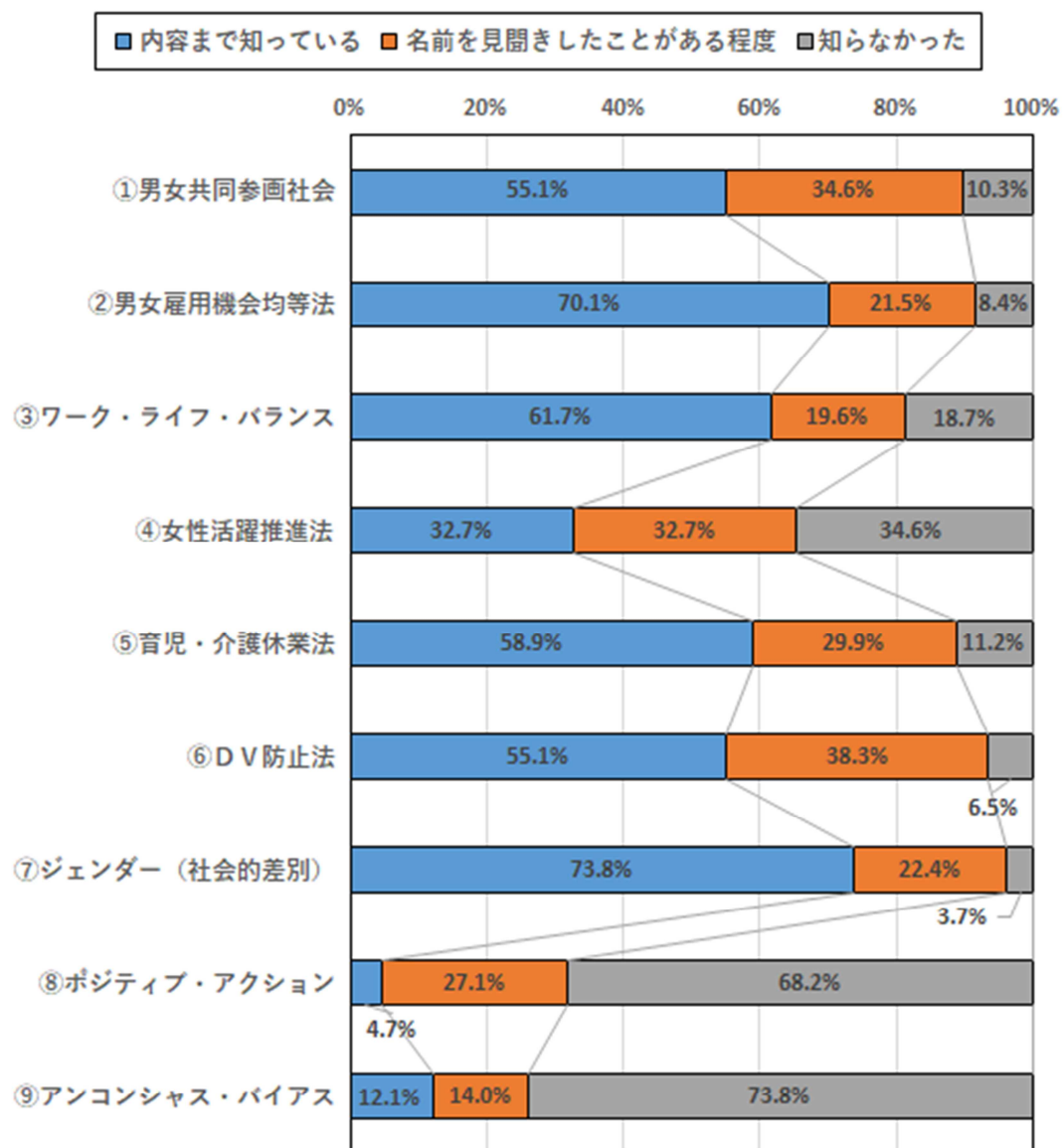
『女性』、『男性』ともに「どちらかといえば改善していると思う」が突出しています。



問32 あなたは、次にあげる用語の意味をご存じでしたか。（各SA）

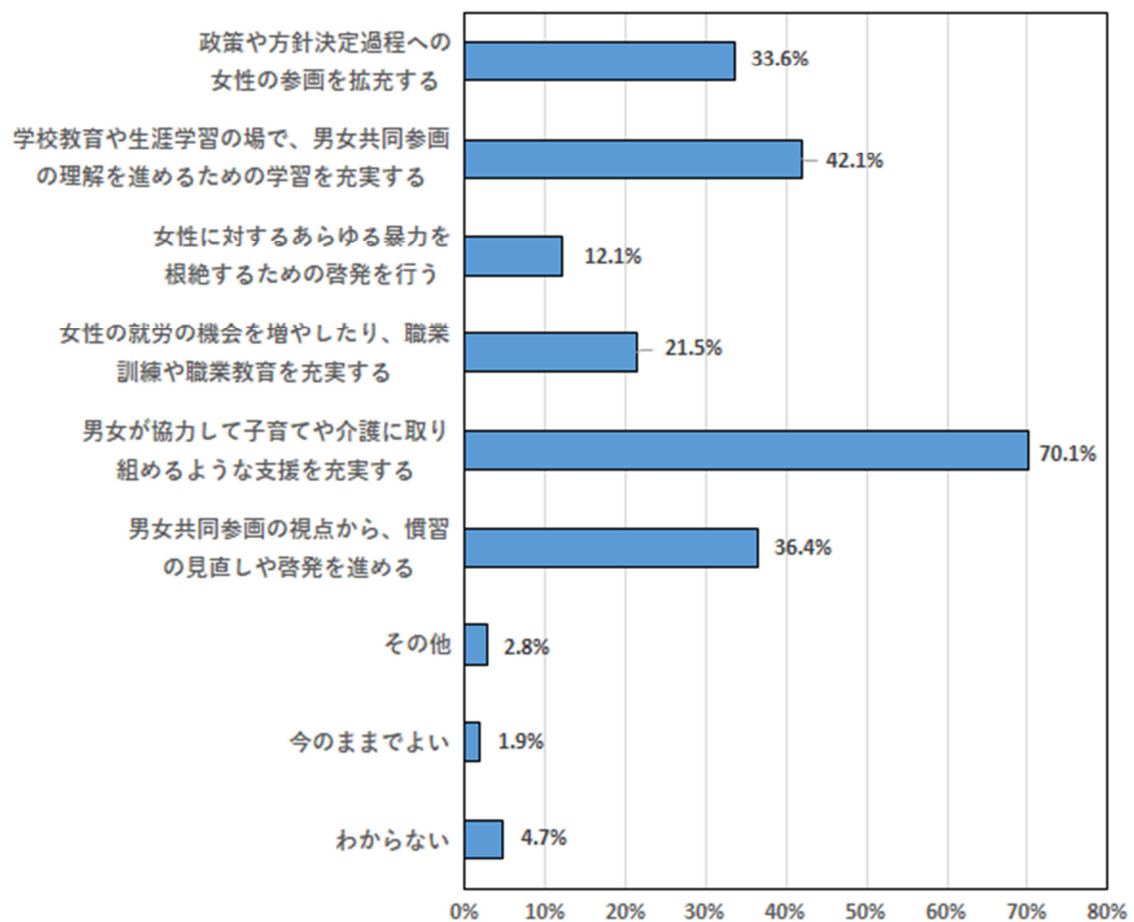
『① 男女共同参画社会』、『② 男女雇用機会均等法』、『③ ワーク・ライフ・バランス』、『⑤ 育児・介護休業法』、『⑥ DV防止法』、『⑦ ジェンダー（社会的差別）』では「内容まで知っている」の割合が一番高くなっています。

『④ 女性活躍推進法』、『⑧ ポジティブ・アクション』、『⑨ アンコンシャス・バイアス』では「知らなかった」の割合が一番高くなっています。



問33 男女共同参画社会の実現のために、あなたは、今後どのようなことが必要だと思いますか。(MA)

「男女が協力して子育てや介護に取り組めるような支援を充実する」が70.1%で最も高くなっています。次いで「学校教育や生涯学習の場で、男女共同参画の理解を進めるための学習を充実する」が42.1%、「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める」が36.4%で続いています。



《問 33 男女共同参画実現のために必要なこと》×《性別》女性 N=65, 男性 N=42

『女性』は『男性』に比べて「政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する」、「女性に対するあらゆる暴力を根絶するための啓発を行う」が高くなっています。

『男性』は『女性』に比べて「学校教育や生涯学習の場で、男女共同参画の理解を進めるための学習を充実する」、「女性の就労の機会を増やしたり、職業訓練や職業教育を充実する」、「男女が協力して子育てや介護に取り組めるような支援を充実する」、「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発を進める」が若干高くなっています。

